

青森県内小中学校における家庭科の
実践的・体験的な学習指導に関する実態調査
報告書

2024 年（令和 6 年）10 月

弘前大学教育学部家政教育講座

〇はじめに

「学校教育が、その成果を十分あげることができるかどうかは、教師の力に大きく依存していることは言うまでもない。今後、『令和の日本型学校教育』を実現できるかどうか、時代の変化に応じた高い資質能力を身に付けた教師を確保し、教師が生き生きと活躍できる環境を整備することができるかどうかにかかっている。」令和3年11月、中央教育審議会の「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会から出された審議まとめの一節です。

平成19年6月の教育職員免許法の改正により、平成21年度から導入された教員免許更新制は、教師に学びの契機と機会を提供し、教師が最新の知識・技能を修得することを制度的に担保することを目的とするものでした。この間、弘前大学教育学部家政教育講座においても講習を開設し、教員の皆さまに学びの機会を提供してきました。しかしながら、周知のように、その後の教育をめぐる状況は大きく変化し、高度な専門職であるべき教員の学びの在り方も、受け身の姿勢から主体的な姿勢が求められるようになっていきます。免許状の効力と関連付けられた悉皆研修：ある意味受け身の教員免許状更新制は、先般発展的に解消され、「令和の日本型学校教育」を担う教員の研修の在り方が模索されています。

このような動きの中で、実践的・体験的学習を学びの特質とする家庭科教育を担う教員は、どのような研修を求めているのでしょうか。少なくとも、全国一律に家庭科担当教員のニーズを論じることはできません。小中高の学校種や家庭科免許の有無、また雇用形態や経験年数によっても、そのニーズが異なることは容易に想像されます。これらは、都道府県によって教員の採用方法や学校規模（小規模校、僻地校、義務教育学校等）などに違いがあり、教諭・常勤講師・非常勤講師の配置や、免許外教科担任の数が異なることによる影響が大きいと考えられます。県単位でのニーズの把握は、必要不可欠です。

そこで、弘前大学教育学部家政教育講座では、よりよい研修機会を提供することに役立てるため、青森県内の小中学校の家庭科担当教員の皆さまを対象に、実践的・体験的な学習の指導の現状や、授業を担当する中で、困難に感じていることや知りたいと欲していることなど学校現場のニーズをより具体的に把握するための調査を実施し、結果をまとめました。

本調査にご理解・ご協力をいただきました学校長ならびに教員の皆さまに厚くお礼申し上げますとともに、更に充実した研修の機会を提供して参りたいと思います。また、本報告書が、家庭科担当教員の皆さまが授業を進める際の参考になれば幸甚に存じます。

弘前大学教育学部家政教育講座
(調査担当) 准教授 加賀恵子

目 次

Ⅰ 調査概要

- Ⅰ.Ⅰ 目的
- Ⅰ.Ⅱ 対象
- Ⅰ.Ⅲ 方法
- Ⅰ.Ⅳ 回収数
- Ⅰ.Ⅴ 実施期間

Ⅱ 調査結果

- Ⅱ.Ⅰ 回答者属性
 - (Ⅰ) 家庭科を教えている学校種
 - (Ⅱ) 雇用形態
 - (Ⅲ) 教員歴
 - (Ⅳ) 家庭科教員歴
 - (Ⅴ) 保有教員免許
 - (Ⅵ) 授業担当時数
 - (Ⅶ) 性別
- Ⅱ.Ⅱ 家庭科の指導
 - (Ⅰ) 自身の家庭科の指導
 - (Ⅱ) 家庭科の指導における課題
- Ⅱ.Ⅲ 実践的・体験的な学習指導
 - (Ⅰ) 家族・家庭生活に関する授業
 - (Ⅱ) 食生活に関する授業
 - (Ⅲ) 衣生活に関する授業
 - (Ⅳ) 住生活に関する授業
 - (Ⅴ) 消費生活・環境に関する授業
- Ⅱ.Ⅳ 家庭科の授業で「楽しいな」と感じること
- Ⅱ.Ⅴ 家庭科の授業で「困ったな」と感じること
- Ⅱ.Ⅵ 教員研修の要望

Ⅲ 調査結果を踏まえて

※資料

- ・青森県小中学校校長 調査依頼文書
- ・青森県小中学校家庭科担当教員 調査依頼文書
- ・家庭科の実践的・体験的な学習指導に関する実態調査票

Ⅰ 調査概要

Ⅰ.Ⅰ 目的

青森県内の小中学校における家庭科の実践的・体験的な学習の指導の現状を明らかにするとともに、現職教員が家庭科の授業を担当する中で、困難に感じていることや知りたいと欲していることなど学校現場のニーズをより具体的に把握することを目的とする。

Ⅰ.Ⅱ 対象

青森県内の小中学校の家庭科担当教員

Ⅰ.Ⅲ 方法

青森県内の小学校 258 校, 中学校 154 校, 計 412 校の家庭科担当教員とその所属長に対して文書を郵送し、趣旨を説明した。調査協力の承諾が得られた家庭科担当教員に対して Web による調査を実施した。

Ⅰ.Ⅳ 回収数

	回収数	有効回答数	有効回答率
小学校教員	63	62	98.4%
中学校教員	39	39	100.0%
全 体	102	101	99.0%

Ⅰ.Ⅴ 実施期間

2023 年 1-2 月

Ⅰ.Ⅵ その他

・構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない。

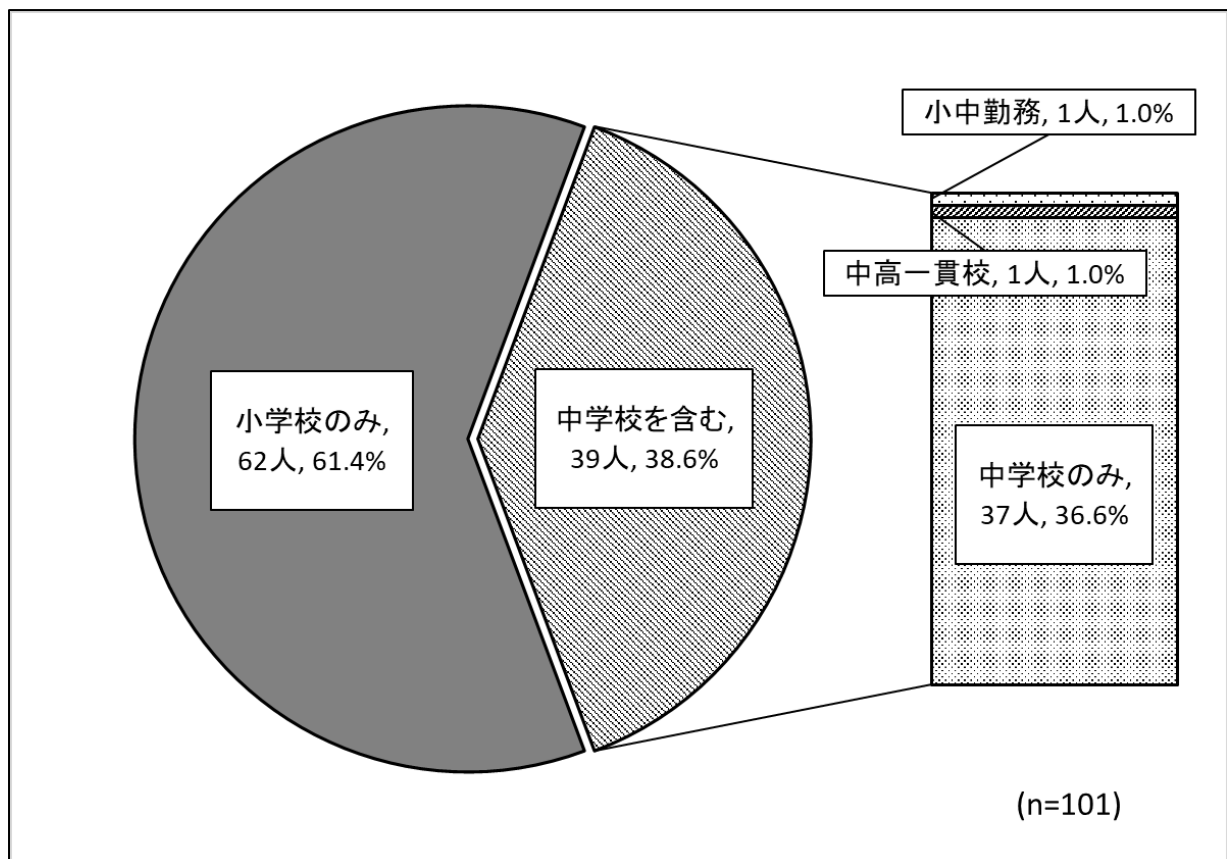
2 調査結果

2.1 回答者属性

(1) 家庭科を教えている学校種

問 15 現在家庭科を教えておられる学校種について、あてはまるものをお選びください。
(※複数回答可：小中勤務、中高勤務等)

図表 2-1-1 家庭科を教えている学校種



<概要>

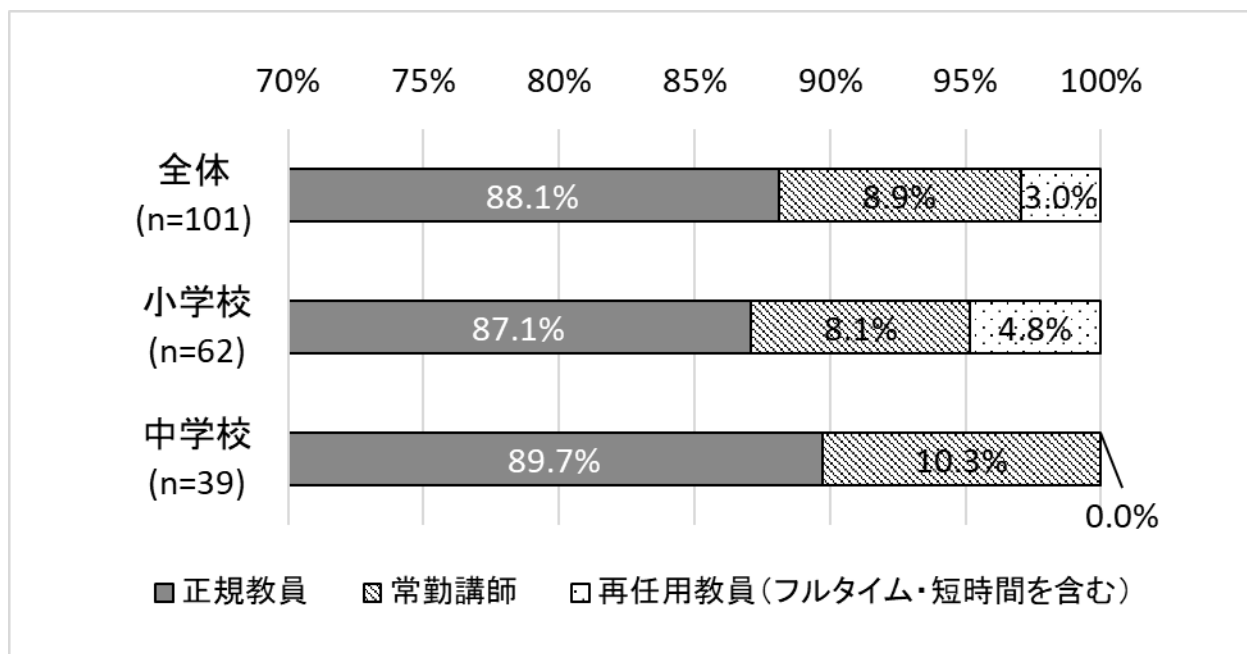
- ・小学校のみで家庭科を教えている者は、62人(61.4%)であった。
- ・中学校のみで家庭科を教えている者は、37人(36.6%)であった。
- ・小学校と中学校で教えている者が1人(1.0%)、中高一貫校で教えている者が1人(1.0%)おり、中学校で家庭科を教えている者は39人(38.6%)であった。

※これ以降、学校段階でデータを示す場合は、小学校のみの場合を「小学校」、中学校を含む場合を「中学校」として示す。

(2) 雇用形態

問 16 現在の雇用形態について、あてはまるものをお選びください。

図表 2-1-2 雇用形態



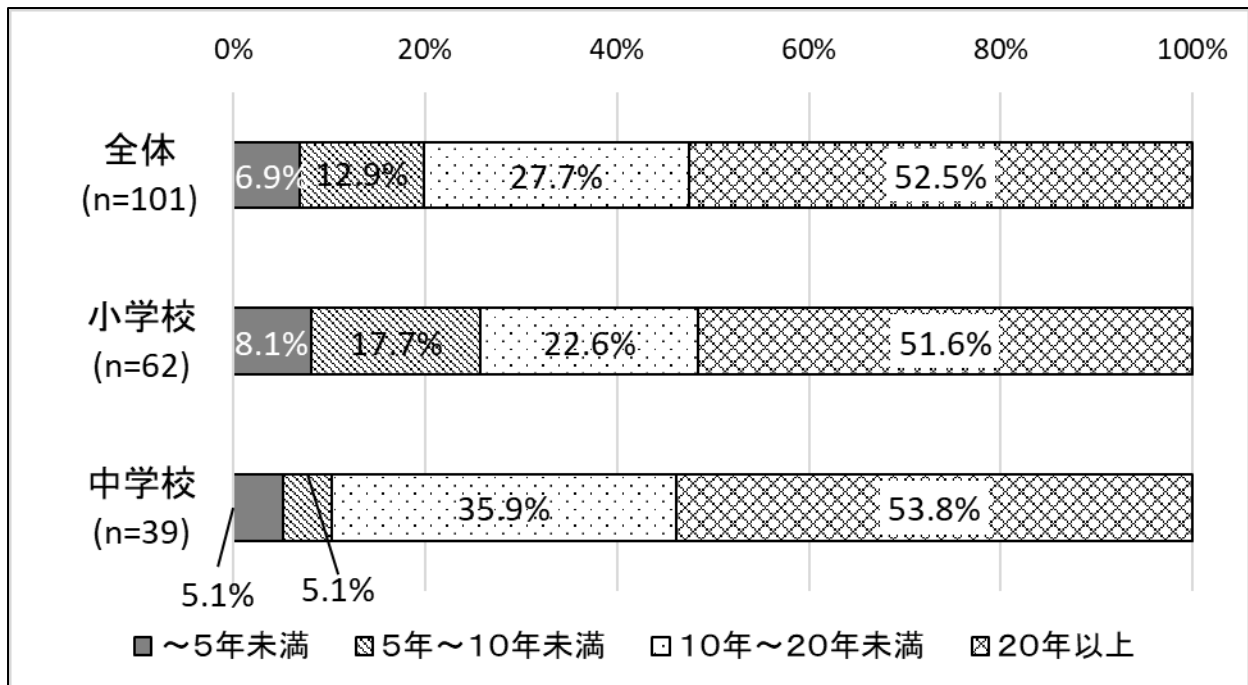
<概要>

- ・正規教員の割合は高く、全体 88.1%、小学校 87.1%、中学校 89.7%であった。
- ・常勤講師の割合は、いずれも 1 割程度を占めていた。
- ・再任用教員(フルタイム・短時間を含む)は、小学校で 4.8%、中学校では 0.0%であった。

(3) 教員歴

問 17 あなたの教員歴について、あてはまるものを選んでください。(※講師期間を含む)

図表 2-1-3 教員歴



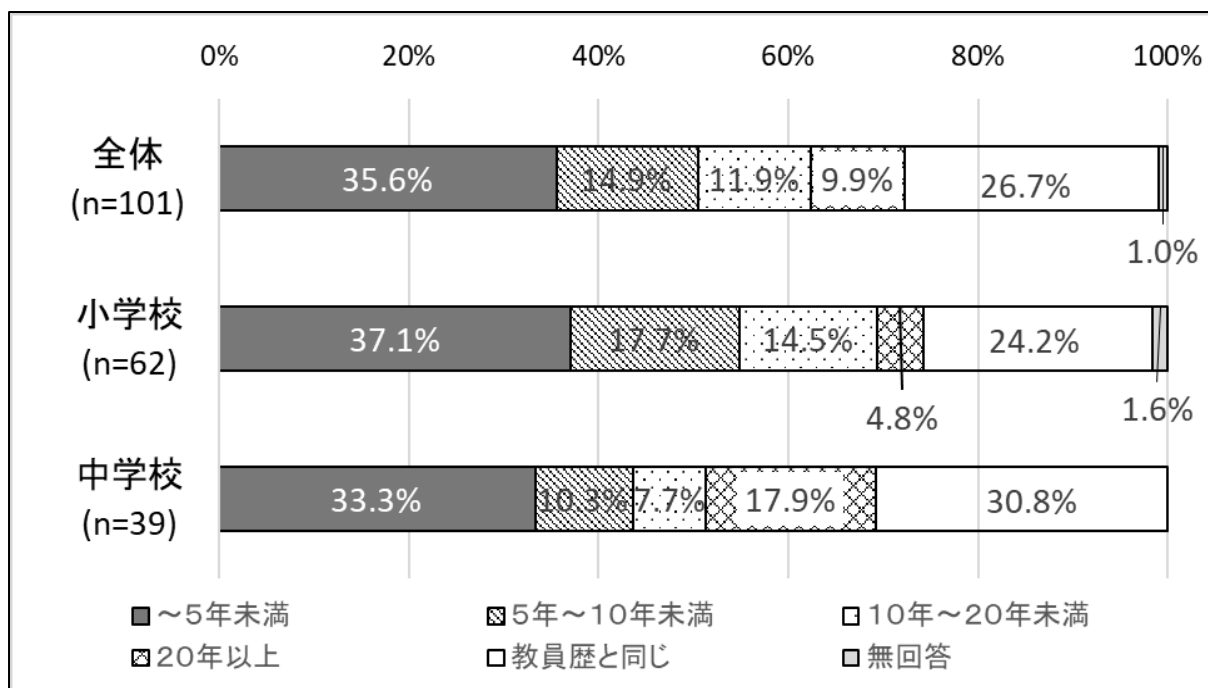
<概要>

- ・「20年以上」の割合が最も高く、全体 52.5%、小学校 51.6%、中学校 53.8%で 5 割強を占めていた。
- ・次いで「10年~20年未満」の割合が高く、全体 27.7%、小学校 22.6%、中学校 35.9%であった。

(4) 家庭科教員歴

問 18 あなたの家庭科教員歴について、あてはまるものを選んでください。（※講師期間を含む）

図表 2-1-4 家庭科教員歴



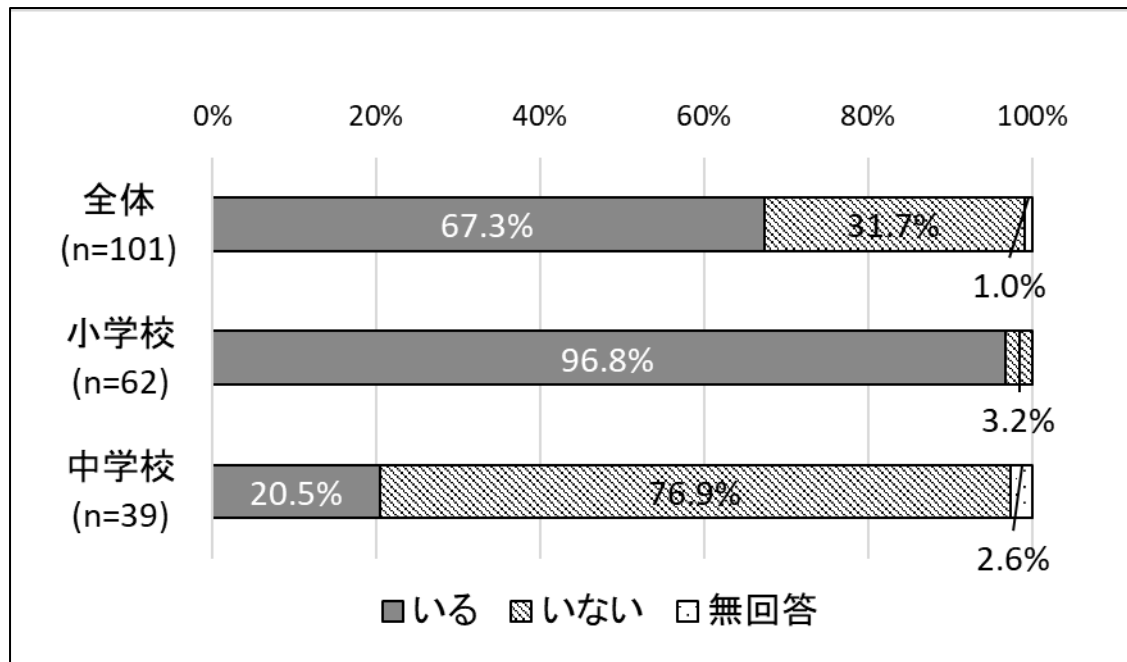
<概要>

- ・「～5年未満」の割合が最も高く、全体 35.6%、小学校 37.1%、中学校 33.3%で3割強を占めていた。
- ・次いで「教員歴と同じ」の割合が高く、全体 26.7%、小学校 24.2%、中学校 30.8%であった。

(5) 保有教員免許

問 19 あなたは小学校の免許を保有していますか。

図表 2-1-5 小学校教員免許

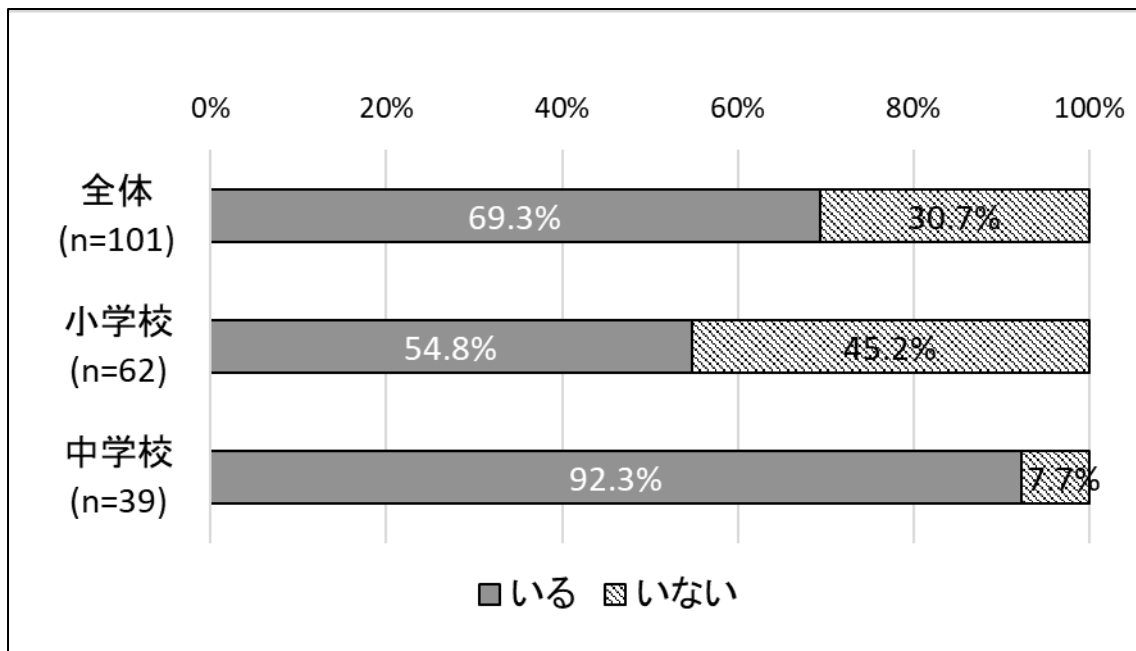


<概要>

- ・小学校教員の免許状の保有割合は、全体としては 67.3%, 小学校 96.8%, 中学校 20.5%であった。

問 20 あなたは中学校の免許を保有していますか。

図表 2-1-6 中学校教員免許

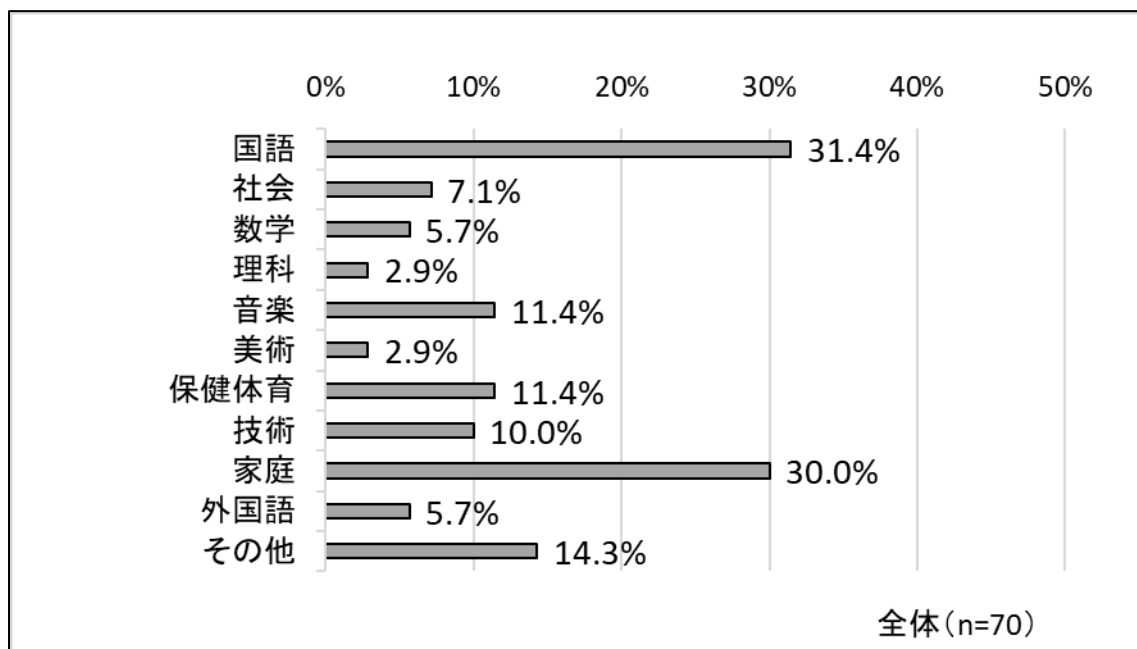


<概要>

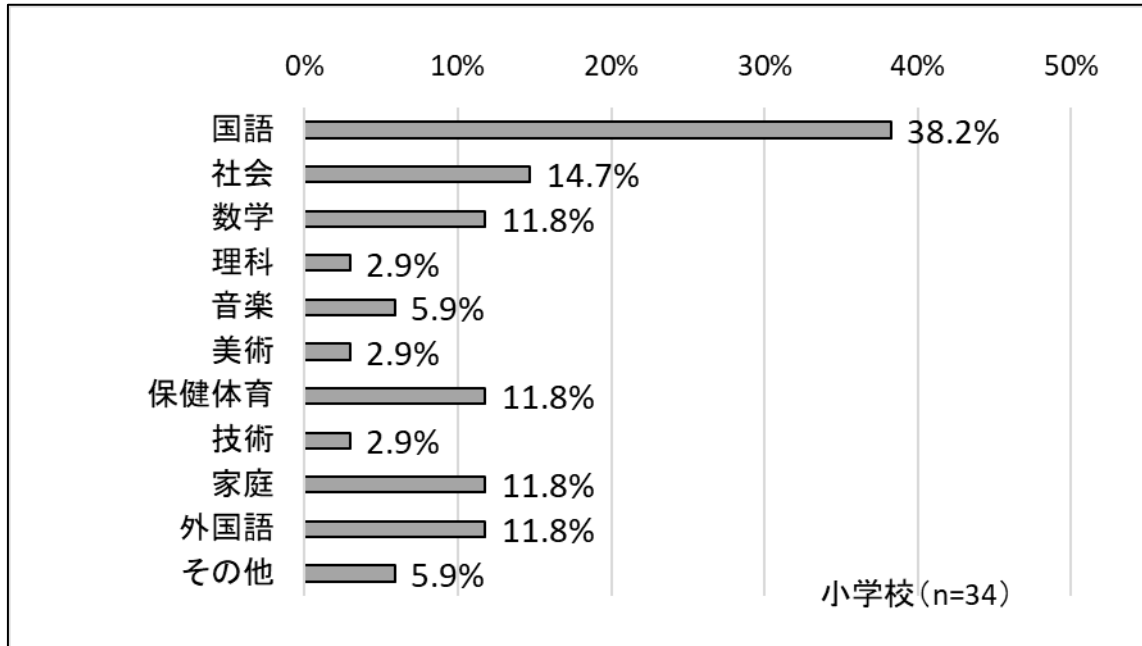
- ・中学校教員の免許状の保有割合は、全体としては 69.3%、小学校 54.8%、中学校 92.3%であった。

問 21 免許を保有している教科をすべてお選びください。

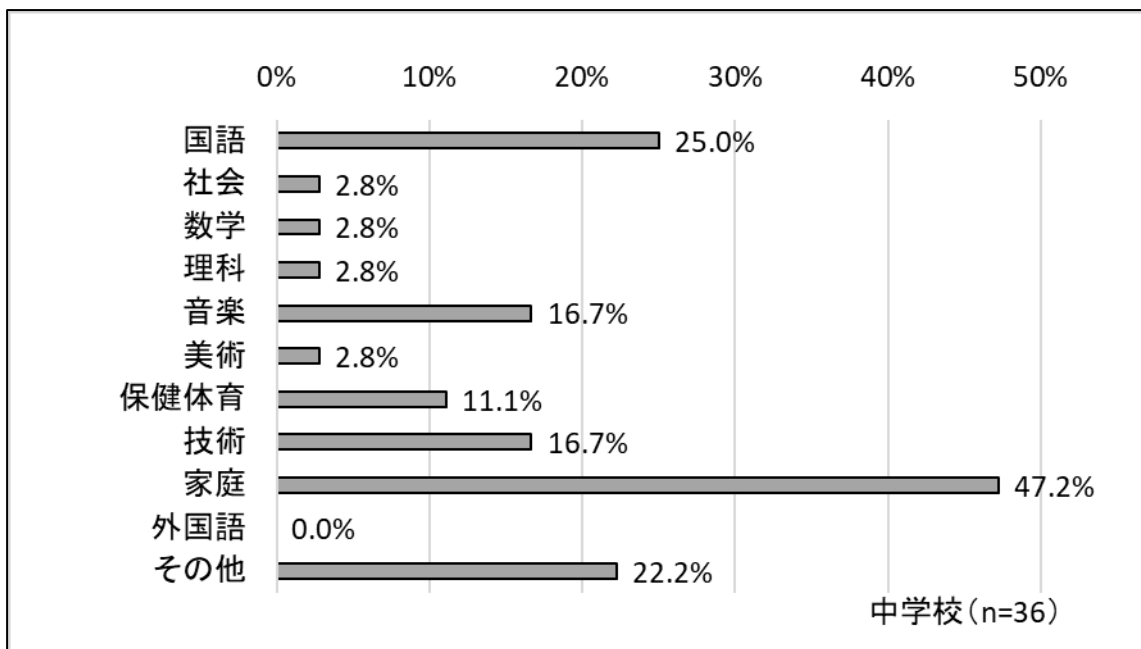
図表 2-1-7 中学校教員免許（教科内訳）（全体）



図表 2-1-8 中学校教員免許(教科内訳)(小学校)



図表 2-1-9 中学校教員免許(教科内訳)(中学校)

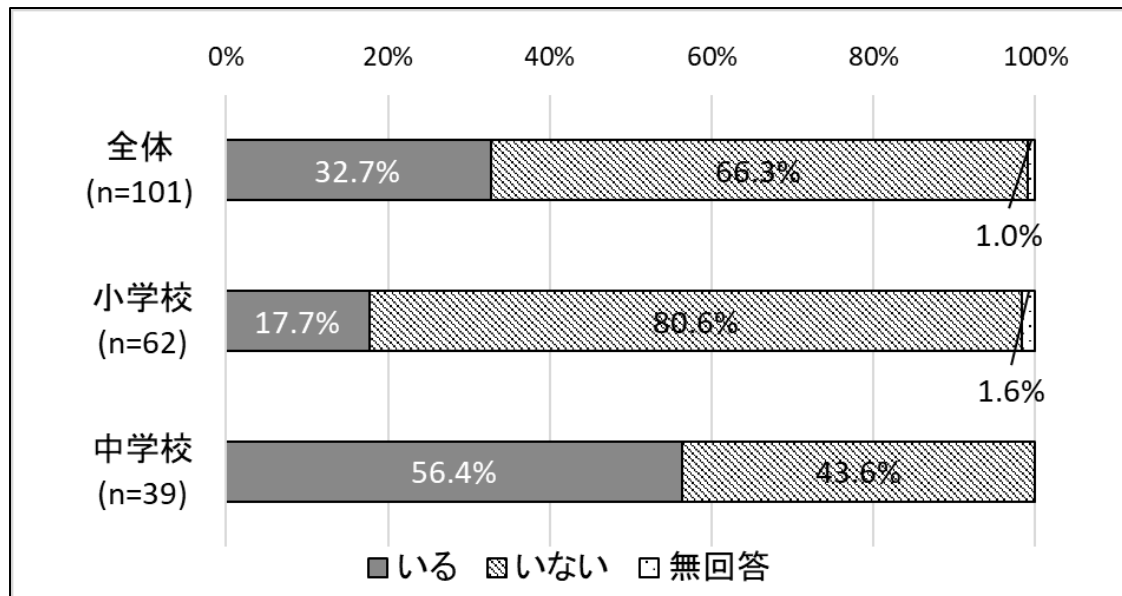


<概要>

- ・全体では、「国語」が 31.4%と最も高く、次いで「家庭」が 30.0%であった。
- ・小学校は、「国語」が 38.2%と最も高く、「社会」14.7%、「数学」、「保健体育」、「家庭」、「外国語」がそれぞれ 11.8%であった。
- ・中学校は、「家庭」が 47.2%と最も高く、次いで「国語」25.0%、「音楽」、「技術」が 16.7%であった。

問 22 あなたは高校家庭の免許を保有していますか。

図表 2-1-10 高校家庭教員免許



<概要>

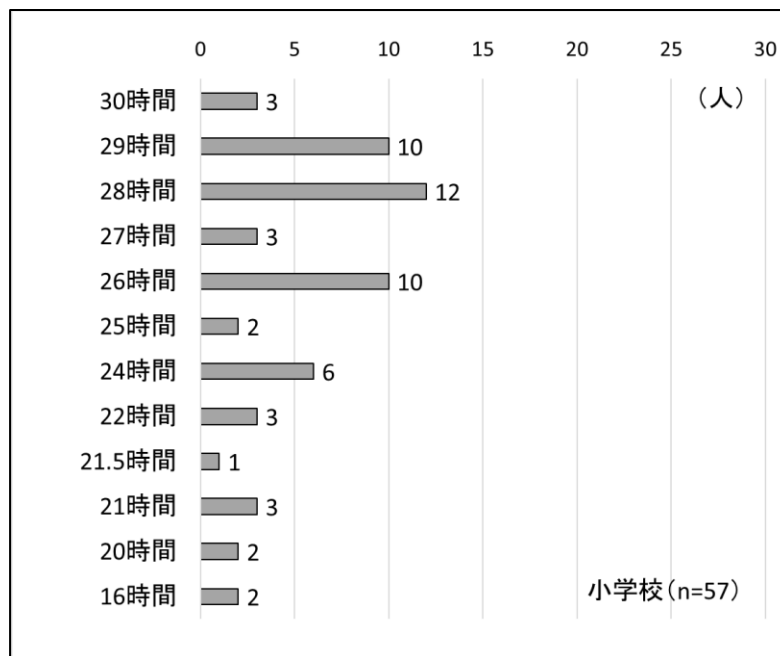
- ・高校家庭の免許状の保有割合は、全体としては 32.7%，小学校 17.7%，中学校 56.4% であった。

(6) 授業担当時数

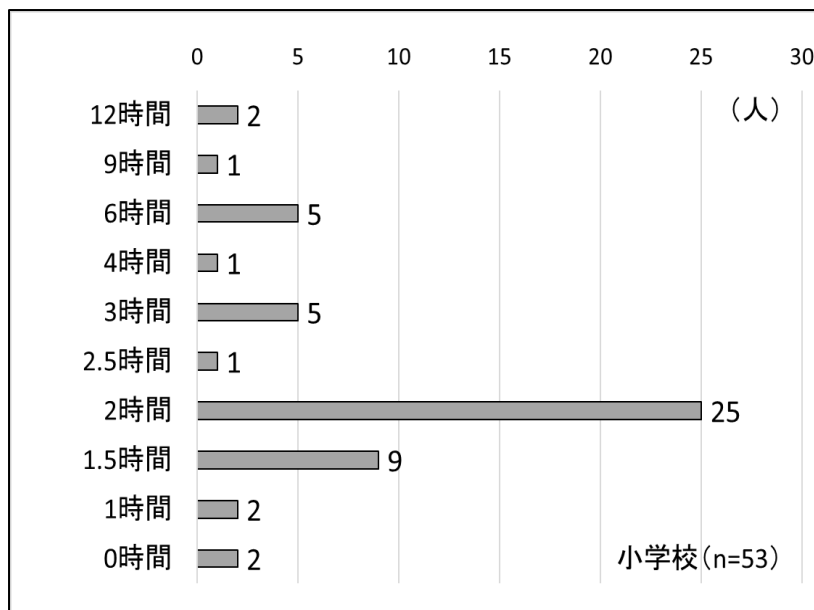
問 23 あなたの週当たりの授業担当時数を教えてください。

●小学校

図表 2-1-11 週当たりの授業担当時数(小学校)



図表 2-1-12 週当たりの家庭科担当時数(小学校)



※0 時間

・家庭科主任であるが、高学年配属ではないため家庭科は担当していない。

・家庭科は教材によって、実習を伴うもののみ。

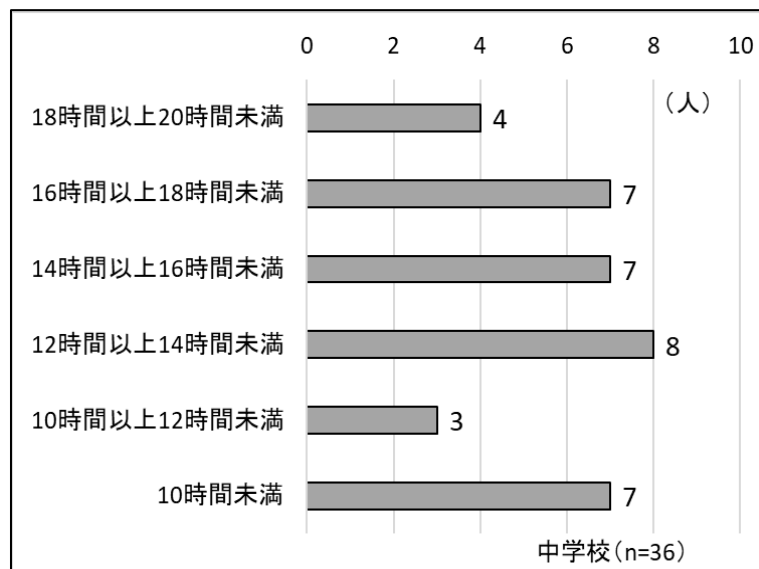
<概要>

・授業担当時数は、「28 時間」が 12 人で最も多く、次いで「29 時間」、「26 時間」が 10 人であった。

・家庭科担当時数は、「2 時間」が 25 人で最も多く、次いで「1.5 時間」が 9 人であった。

●中学校

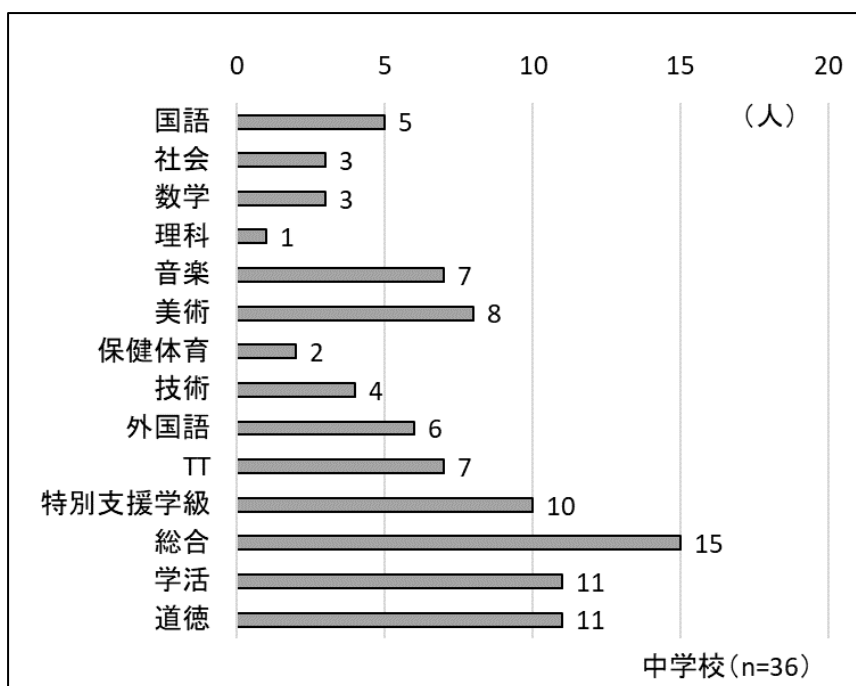
図表 2-1-13 週当たりの授業担當時数(中学校)



※中学校の担當時数は、回答された教科や領域の時間数を合計したものである。

※担當時数が細かく分かれたため、10時間以上の回答を2時間幅で区切って示した。

図表 2-1-14 担当している教科や領域(中学校)

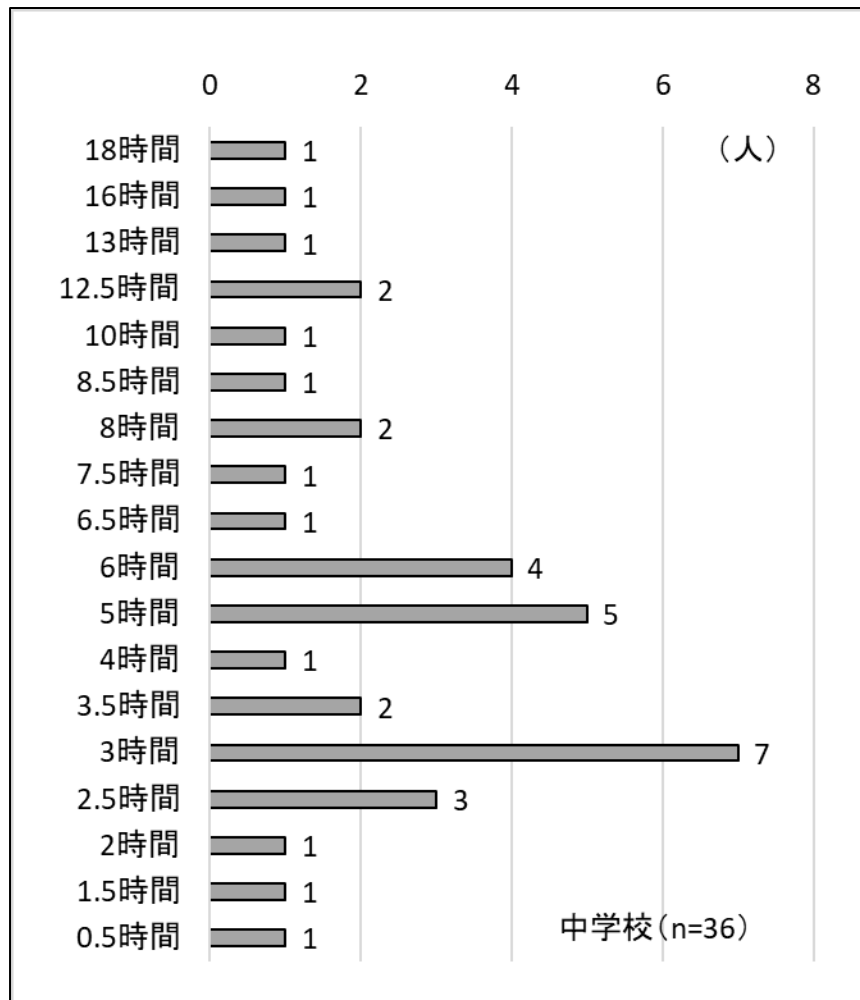


※教科の担当人数には、IT や特別支援学級での指導を含んでいる。

・IT: 数学, 保健体育, 美術, 外国語

・特別支援学級: 国語, 社会, 数学

図表 2-1-15 家庭科担当時数(中学校)



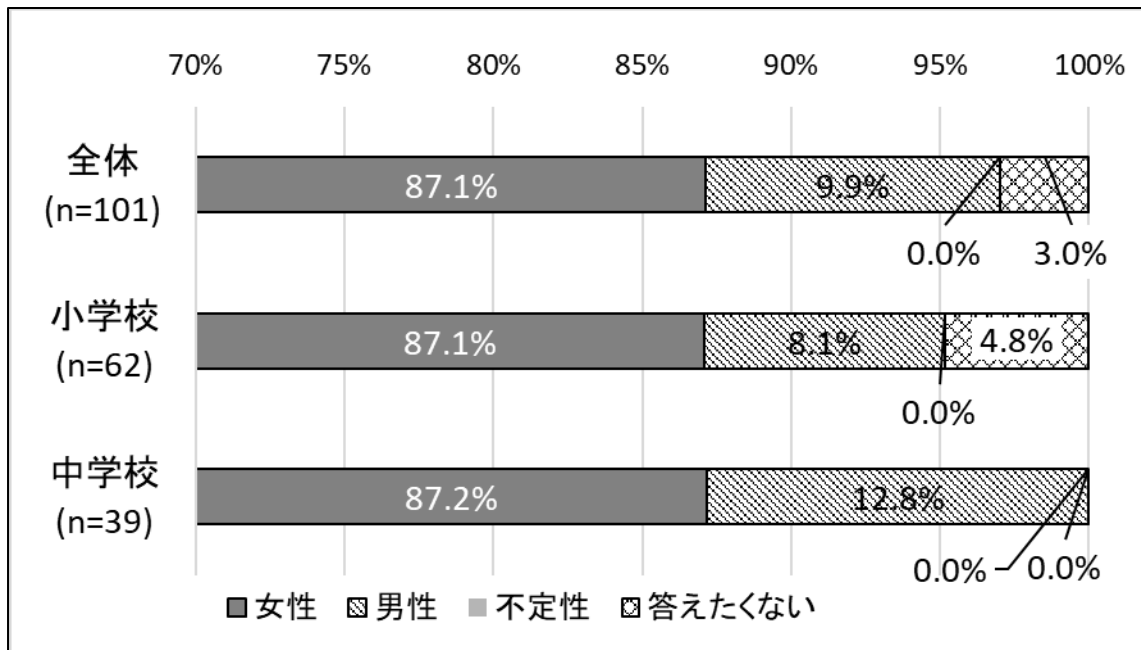
<概要>

- ・家庭科以外に担当している教科や領域は、多岐にわたっていた。最も多いのは「総合的な学習の時間」で15人であった。教科では「美術」が最も多く8人、次いで「音楽」が7人、「外国語」が6人であった。
- ・家庭科以外の教科指導には、「特別支援学級」での指導(10人)や、「TT」による指導(7人)などがあった。
- ・家庭科の担当時数は、「3時間」が最も多く、次いで「5時間」が5人、「6時間」が4人であった。

(7) 性別

問 24 あなたの性別をお選びください。

図表 2-1-16 性別



<概要>

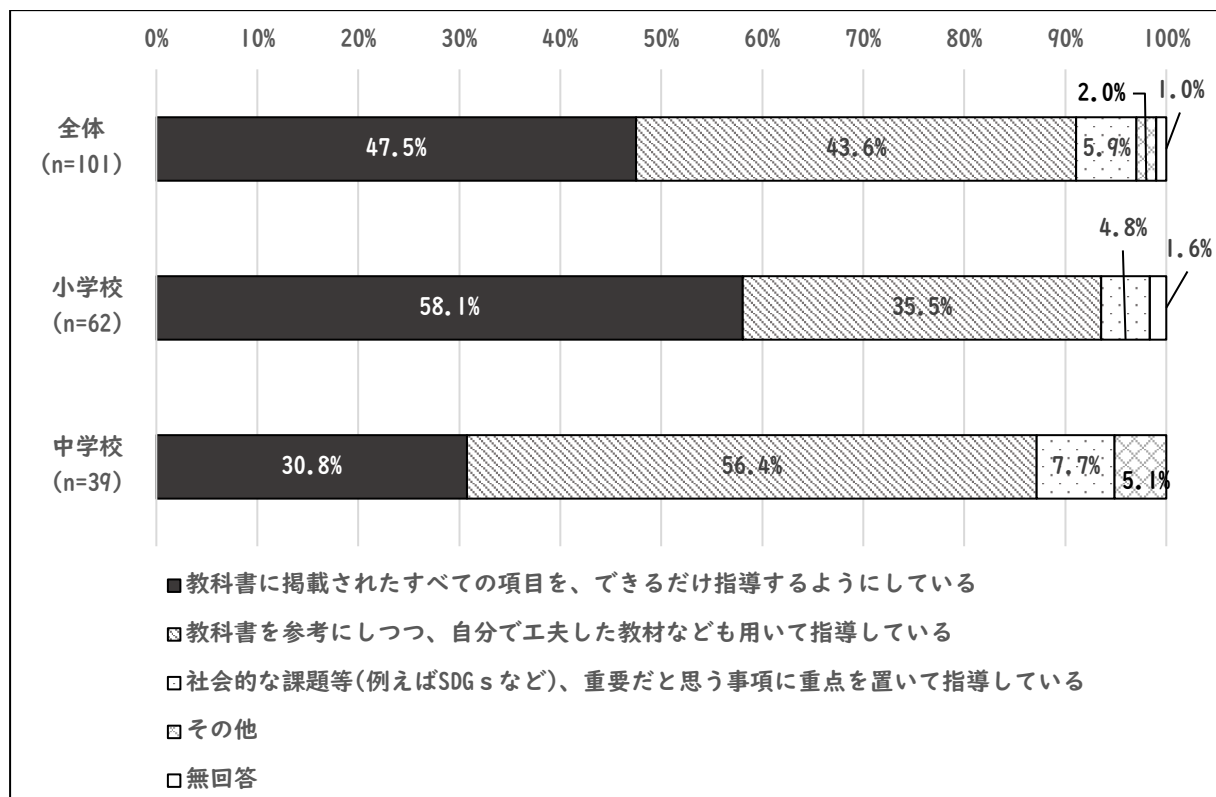
- ・「女性」の割合が高く、全体では 87.1%，小学校 87.1%，中学校 87.2%であった。
- ・「男性」の割合は、小学校の 8.1%に比べ、中学校が 12.8%と高かった。

2.2 家庭科の指導

(1) 自身の家庭科の指導

問3 あなたの家庭科の指導に最も近いものを、一つお選びください。

図表 2-2-1 家庭科の指導スタイル



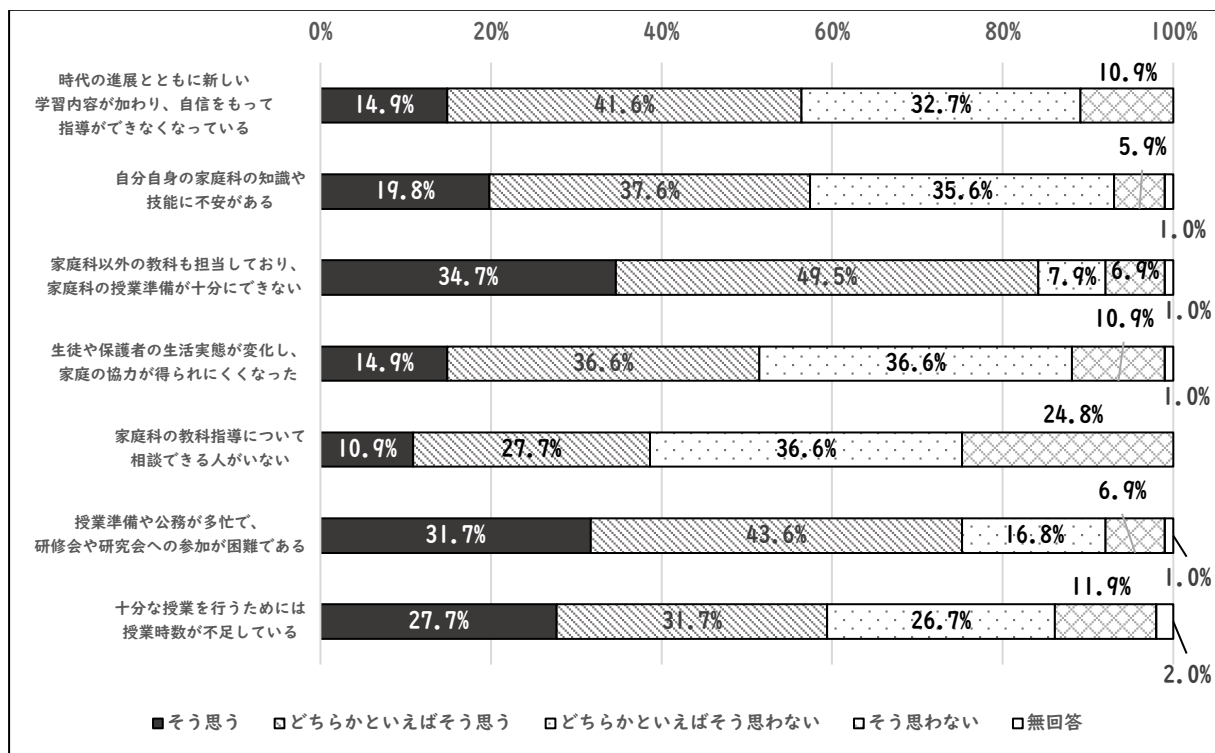
〈概要〉

- ・全体の回答では、「教科書に掲載されたすべての項目を、できるだけ指導するようにしている」(47.5%),「教科書を参考にしつつ、自分で工夫した教材なども用いて指導している」(43.6%)であった。
- ・小学校の回答では、「教科書に掲載されたすべての項目を、できるだけ指導するようにしている」(58.1%),「教科書を参考にしつつ、自分で工夫した教材なども用いて指導している」(35.5%)であった。
- ・中学校の回答では「教科書を参考にしつつ、自分で工夫した教材なども用いて指導している」(56.4%),「教科書に掲載されたすべての項目を、できるだけ指導するようにしている」(30.8%)であった。

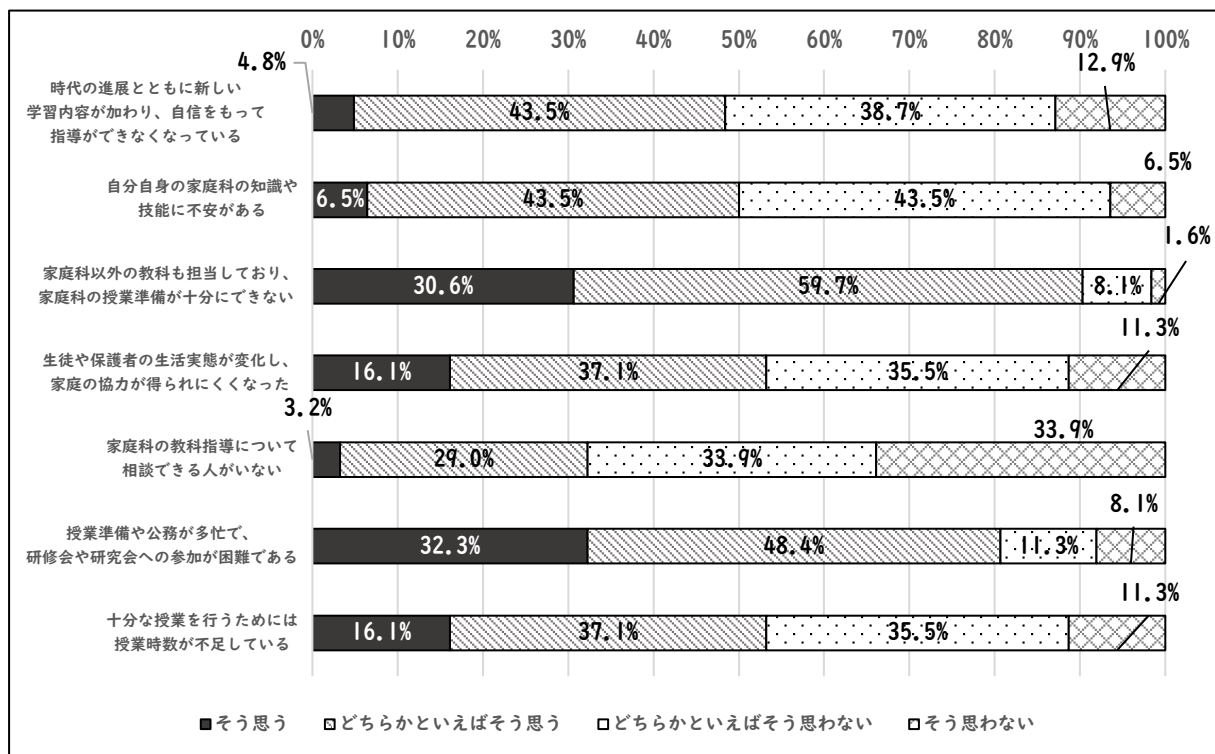
(2) 家庭科の指導における課題

問 2 あなたの家庭科の指導に関してどのくらいあてはまると思いますか。

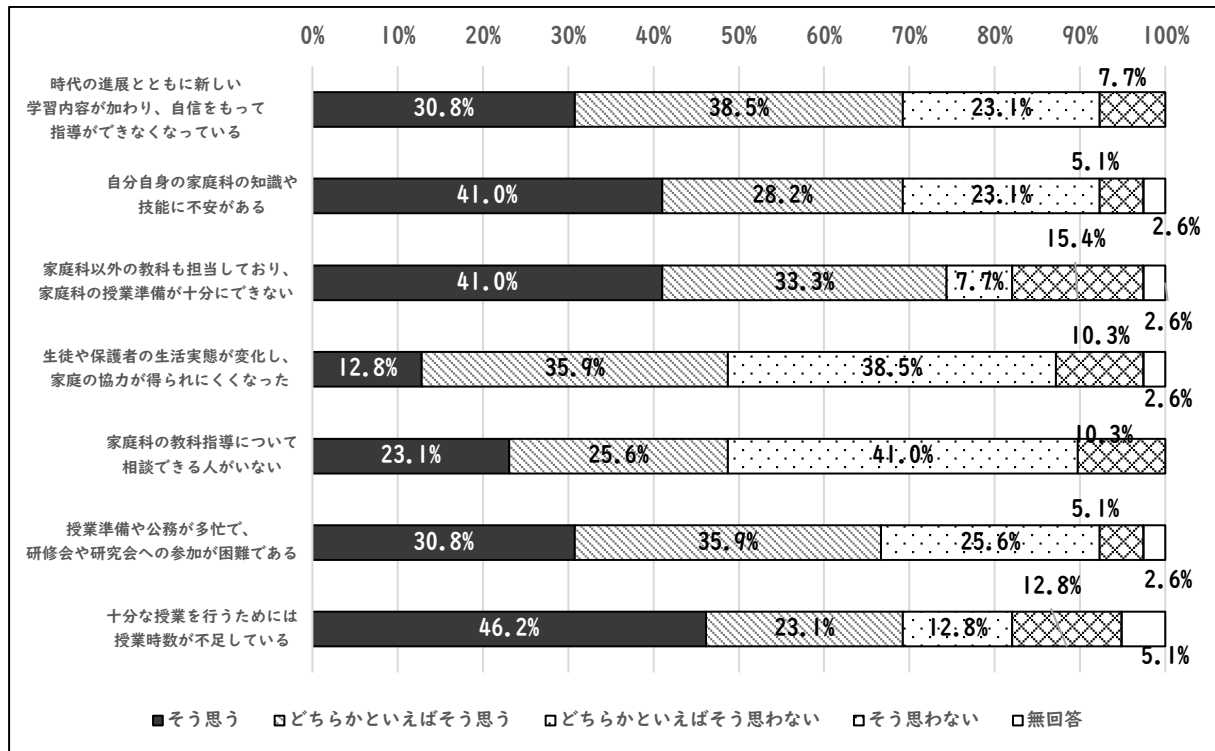
図表 2-2-2 家庭科の指導に対する意識(全体 n=101)



図表 2-2-3 家庭科の指導に対する意識(小学校 n=62)



図表 2-2-4 家庭科の指導に対する意識(中学校 n=39)



〈概要〉

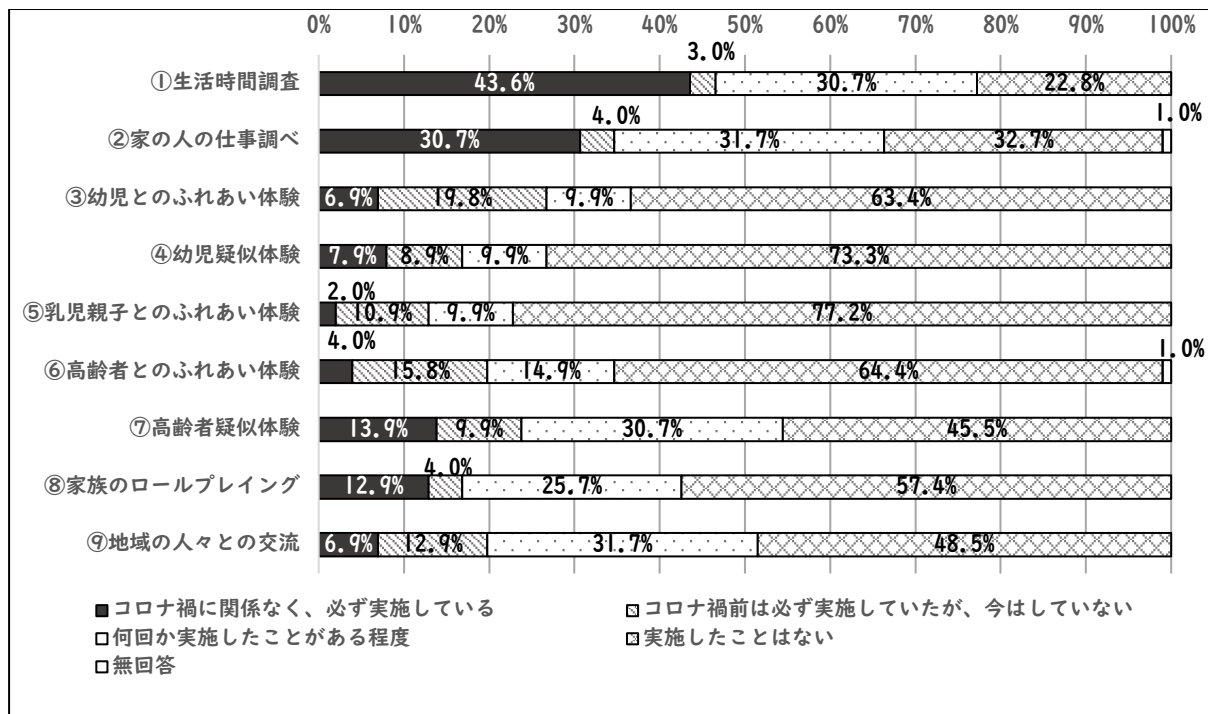
- ・全体の集計で「そう思う」の割合が多かった項目は順に、「家庭科以外の教科も担当しており、家庭科の授業準備が十分にできない」(34.7%)、「授業準備や公務が多忙で、研修会や研究会への参加が困難である」(31.7%)、「十分な授業を行なうためには授業時数が不足している」(27.7%)であった。
- ・小学校の回答で「そう思う」の割合が多かった項目は順に、「授業準備や公務が多忙で、研修会や研究会への参加が困難である」(32.3%)、「家庭科以外の教科も担当しており、家庭科の授業準備が十分にできない」(30.6%)、「十分な準備を行なうためには授業時数が不足している」、「生徒や保護者の生活実態が変化し、家庭の協力が得られにくくなった」(16.1%)であった。
- ・中学校の回答で「そう思う」の割合が多かった項目は順に、「十分な授業を行なうためには授業時間数が不足している」(46.2%)、「自分の家庭科の知識や技能に不安がある」、「家庭科以外の教科も担当しており、家庭科の授業準備が十分にできない」(41.0%)であった。

2.3 実践的・体験的な学習指導

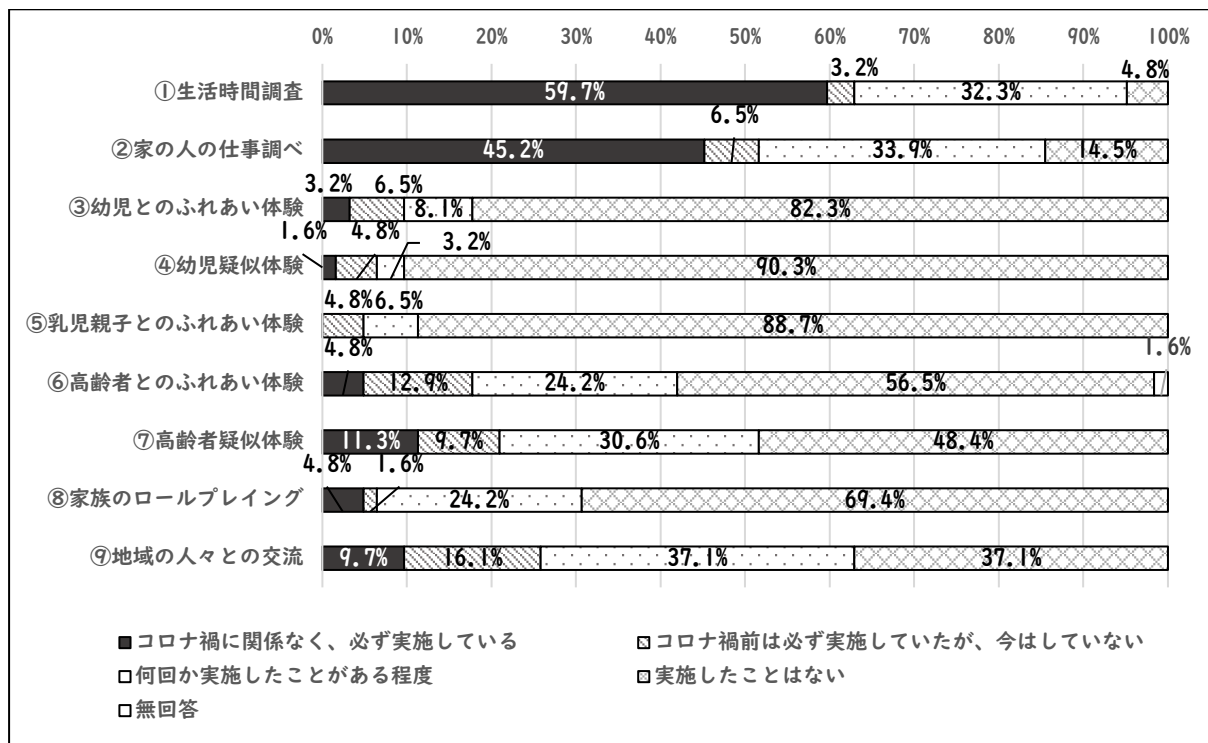
(1) 家族・家庭生活に関する授業

問 4 家族・家庭生活に関する授業について、ご回答ください。

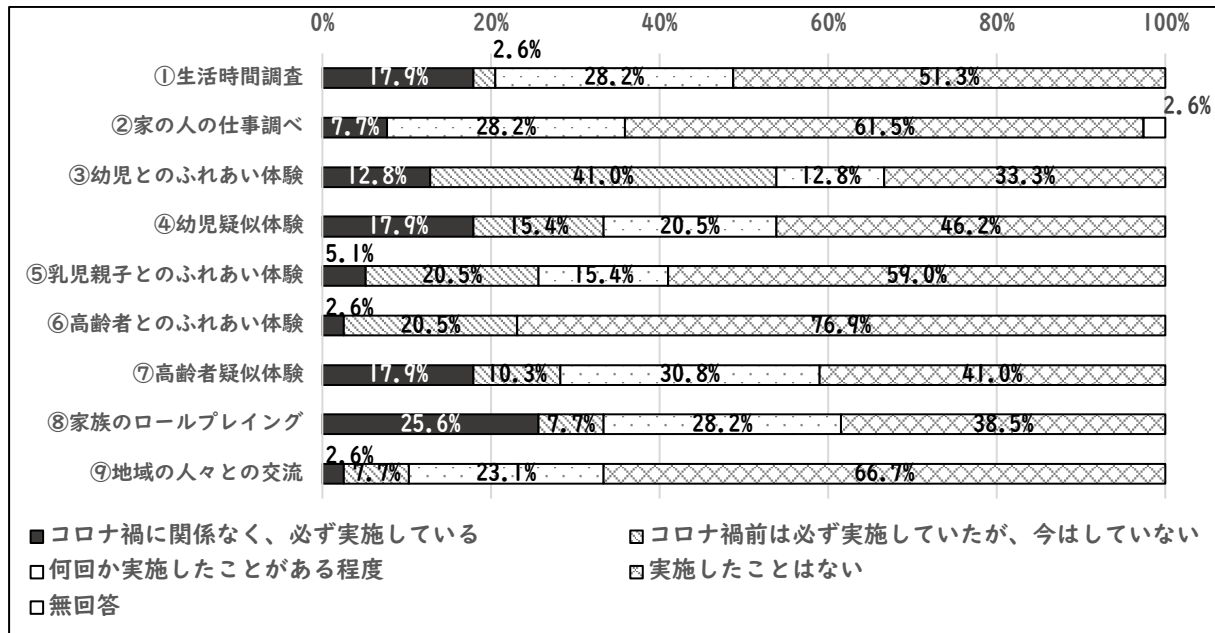
図表 2-3-1 家族・家庭生活に関する授業(全体 n=101)



図表 2-3-2 家族・家庭生活に関する授業(小学校 n=62)



図表 2-3-3 家族・家庭生活に関する授業(中学校 n=39)



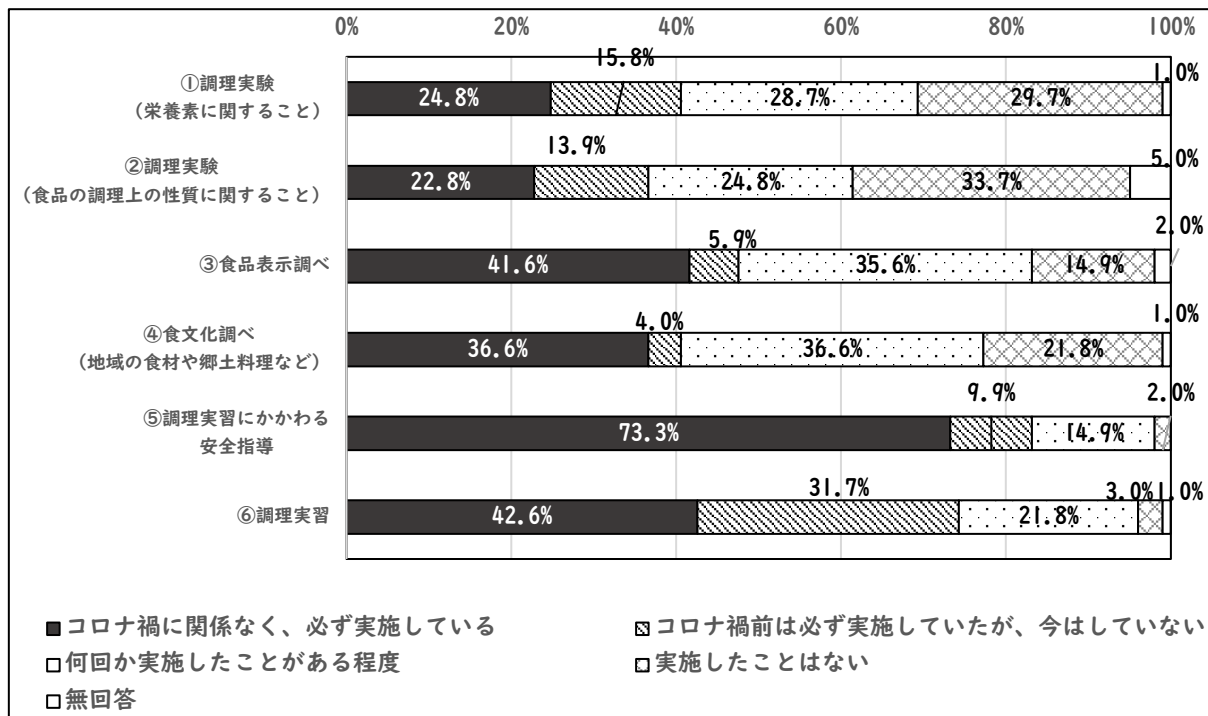
〈概要〉

- ・概要では「コロナ禍に関係なく、必ず実施している」が多かった項目について述べる。
- ・全体では順に、「生活時間調査」(43.6%)、「家の人の仕事調べ」(30.7%)、「高齢者疑似体験」(13.9%)であった。
- ・小学校では順に、「生活時間調査」(59.7%)、「家の人の仕事調べ」(45.2%)、「高齢者疑似体験」(11.3%)であった。
- ・中学校では順に、「家族のロールプレイング」(25.6%)、「生活時間調査」,「幼児疑似体験」,「高齢者疑似体験」(17.9%)であった。

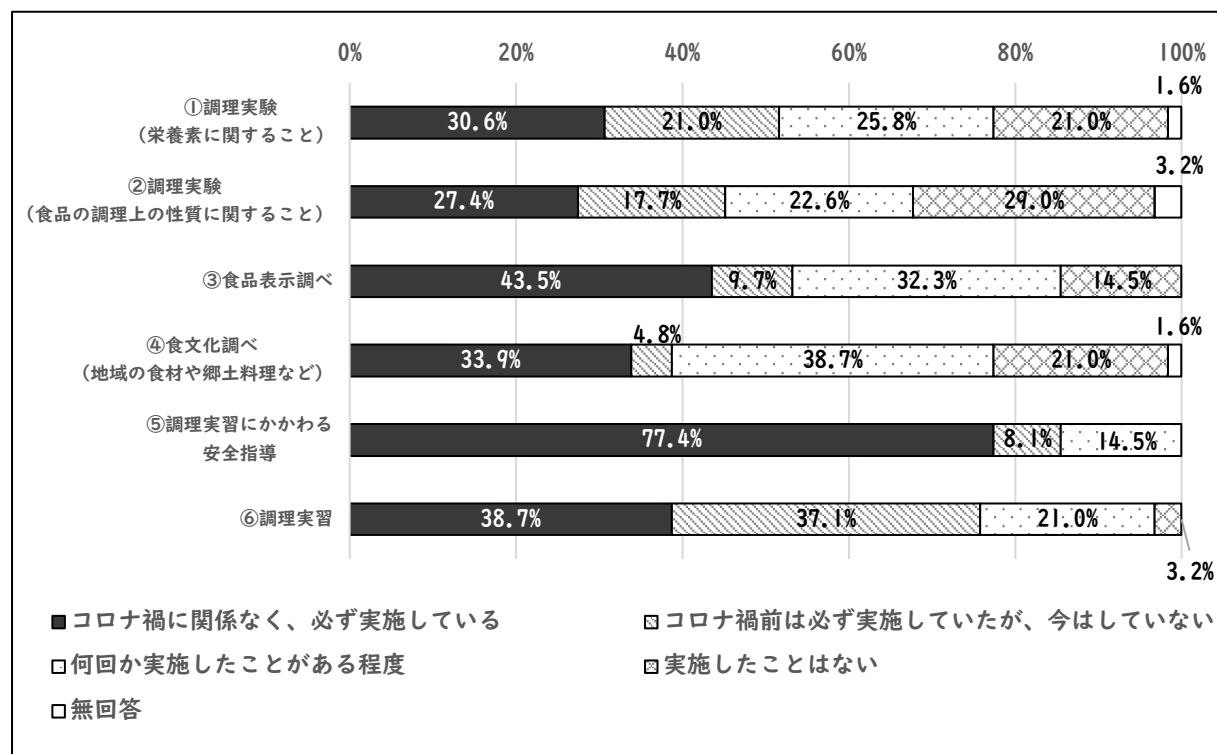
(2) 食生活に関する授業

問 5 食生活に関する授業について、ご回答ください。

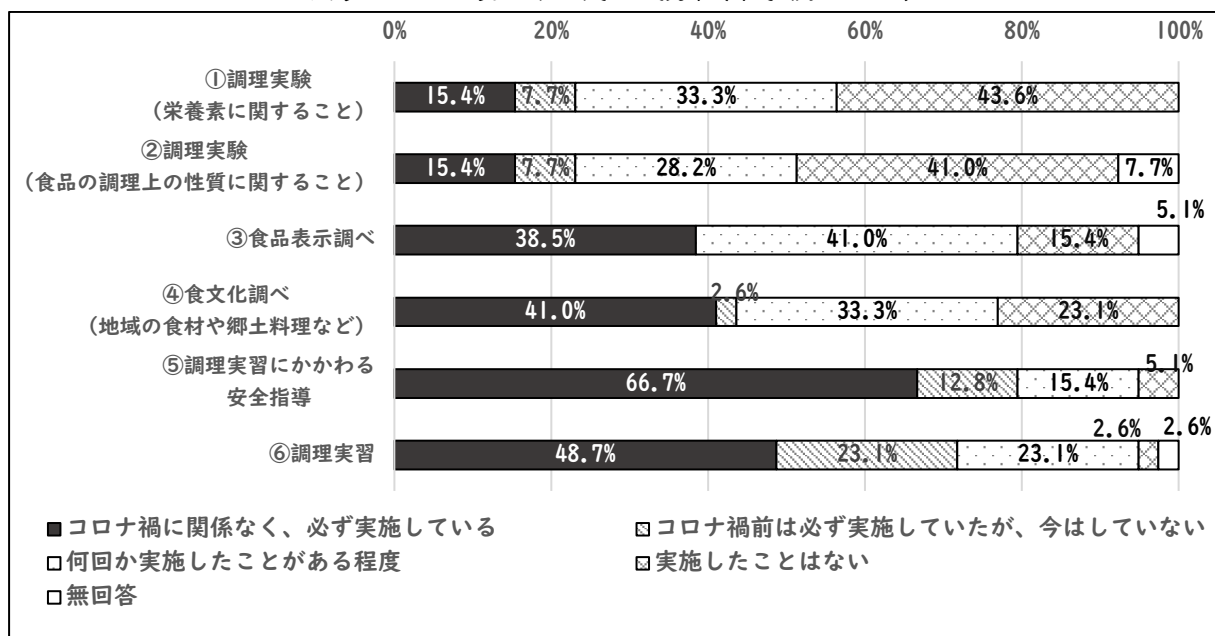
図表 2-3-4 食生活に関する授業（全体 n=101）



図表 2-3-5 食生活に関する授業（小学校 n=62）



図表 2-3-6 食生活に関する授業(中学校 n=39)

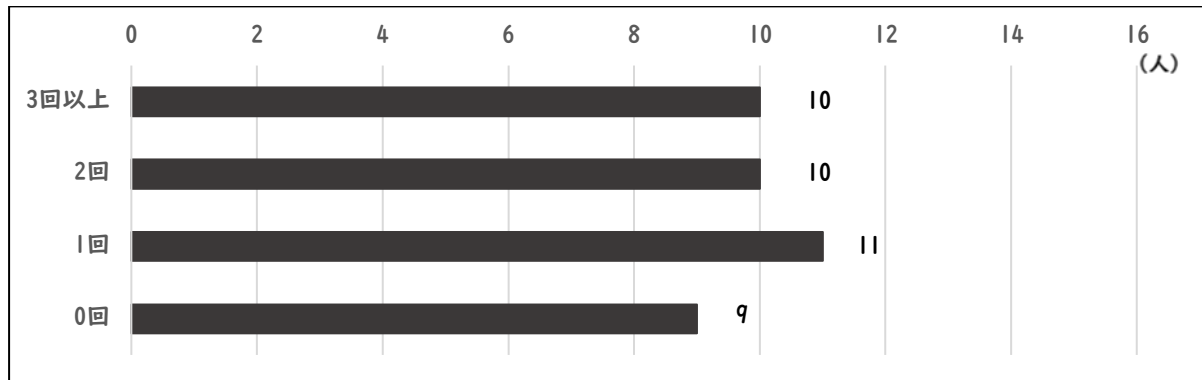


<概要>

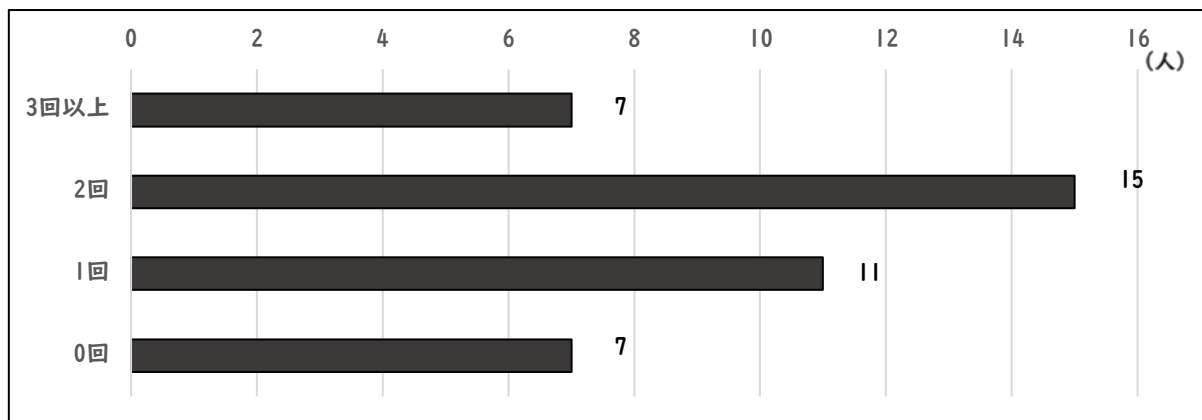
- ・概要では「コロナ禍に関係なく、必ず実施している」が多かった項目について述べる。
- ・全体では順に、「調理実習にかかわる安全指導」(73.3%)、「調理実習」(42.6%)、「食品表示調べ」(41.6%)であった。
- ・小学校では順に、「調理実習にかかわる安全指導」(77.4%)、「食品表示調べ」(43.5%)、「調理実習」(38.7%)であった。
- ・中学校では、順に、「調理実習にかかわる安全指導」(66.7%)、「調理実習」(48.7%)、「食文化調べ(地域の食材や郷土料理など)」(41.0%)であった。

問 6 調理実習を「実施したことはない」以外を選ばれた方にお尋ねします。2022 年度は何回ぐらい調理実習を実施しましたか。家庭での実践を課題とした場合や今後の予定もふくめ学年ごとにお答えください。

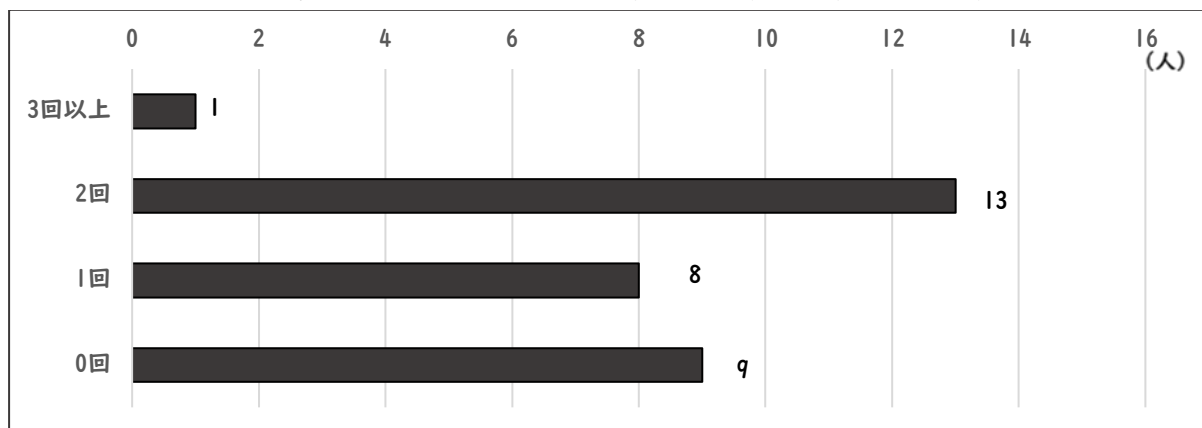
図表 2-3-7 調理実習の実施(実施予定)回数 (小 5 n=40)



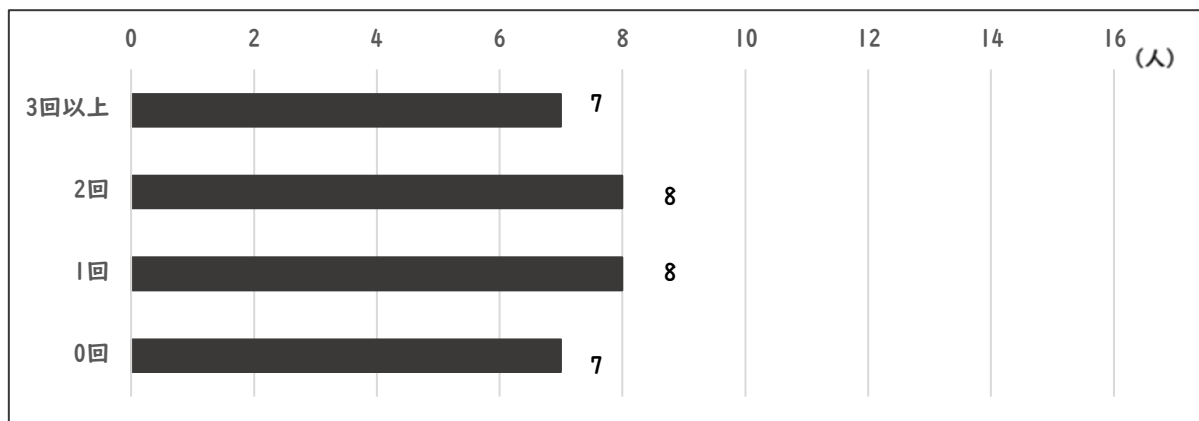
図表 2-3-8 調理実習の実施(実施予定)回数 (小6 n=40)



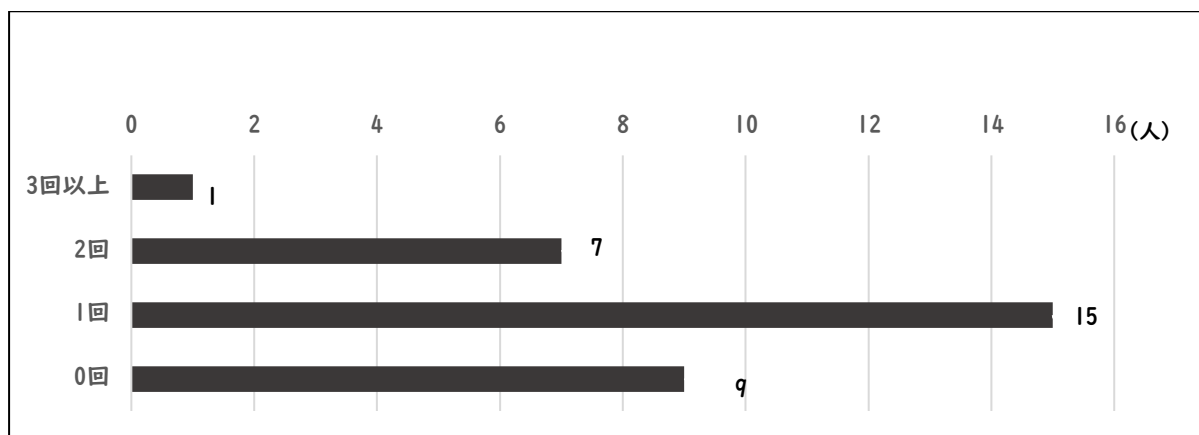
図表 2-3-9 調理実習の実施(実施予定)回数 (中1 n=31)



図表 2-3-10 調理実習の実施(実施予定)回数(中 2 n=30)



図表 2-3-11 調理実習の実施(実施予定)回数(中 3 n=32)



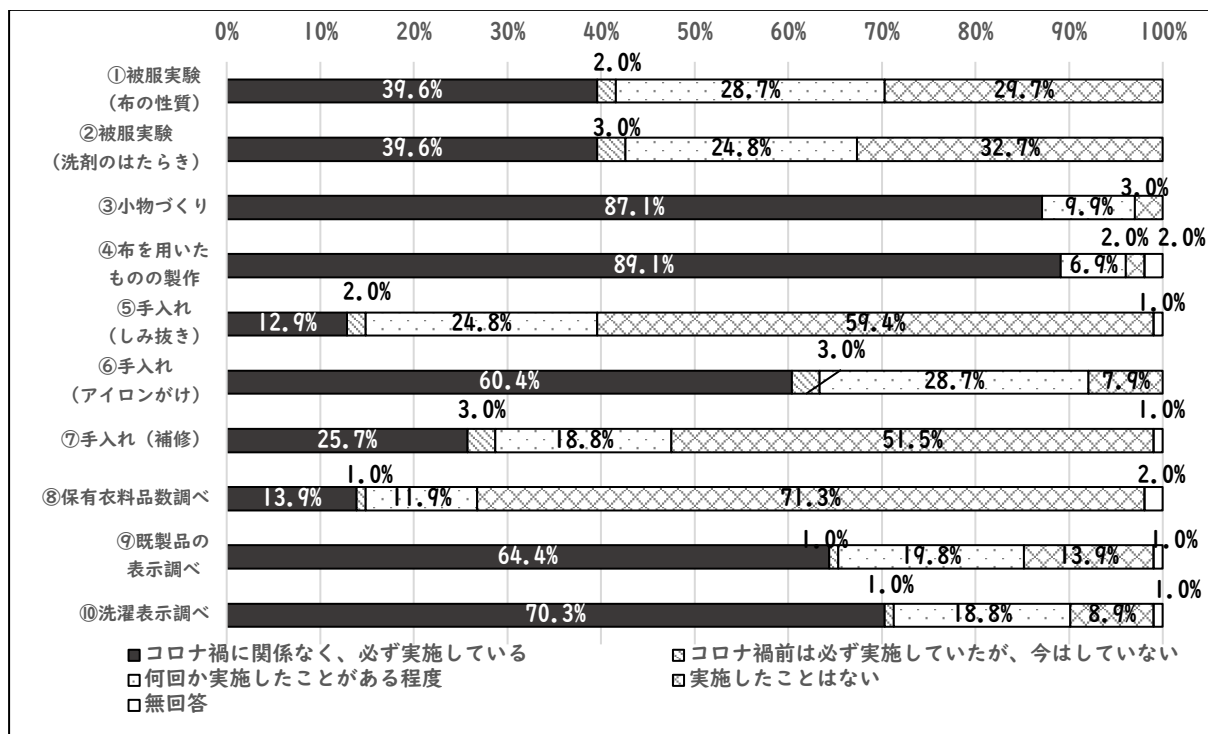
<概要>

- ・小学校5年生における調理実習実施(実施予定)回数は、3回以上が10人、2回が10人、1回が11人、0回が9人であった。
- ・小学校6年生における調理実習実施(実施予定)回数は、3回以上が7人、2回が15人、1回が11人、0回が7人であった。
- ・中学校1年生における調理実習実施(実施予定)回数は、3回以上が1人、2回が8人、1回が13人、0回が9人であった。
- ・中学校2年生における調理実習実施(実施予定)回数は、3回以上が7人、2回が8人、1回が8人、0回が7人であった。
- ・中学校3年生における調理実習実施(実施予定)回数は、3回以上が1人、2回が7人、1回が15人、0回が9人であった。

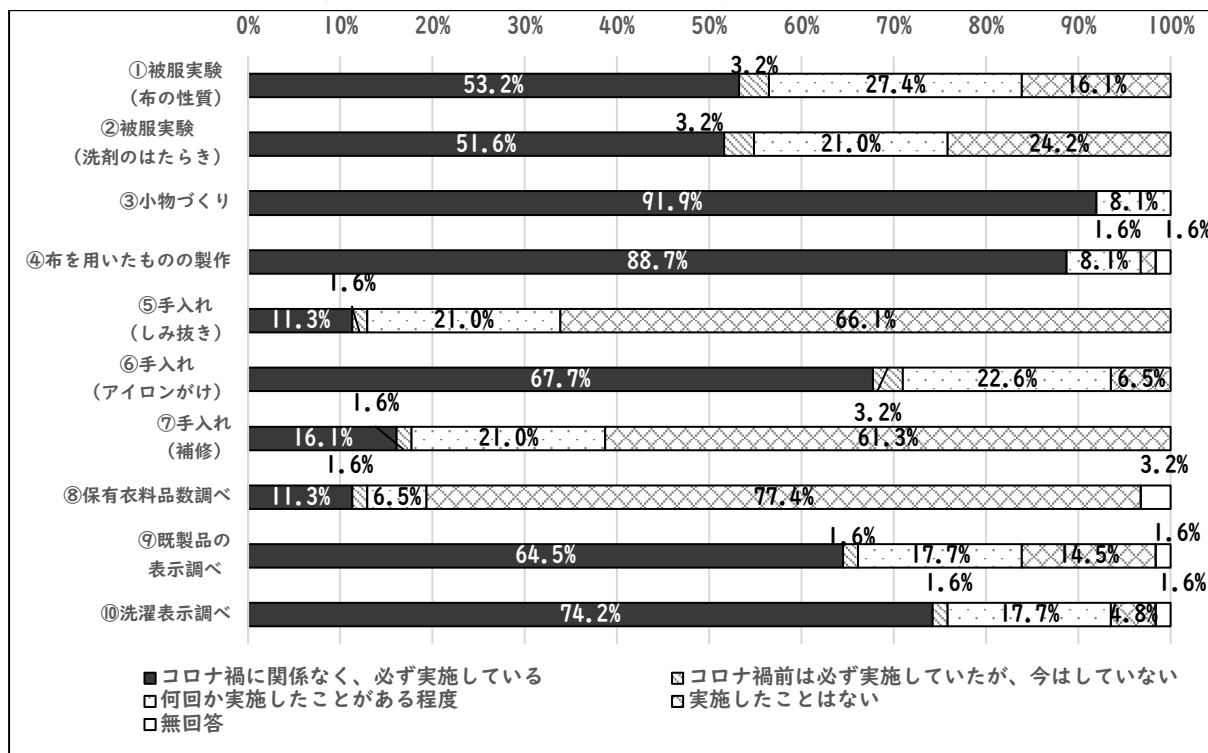
(3) 衣生活に関する授業

問 7 衣生活に関する授業について、ご回答ください。

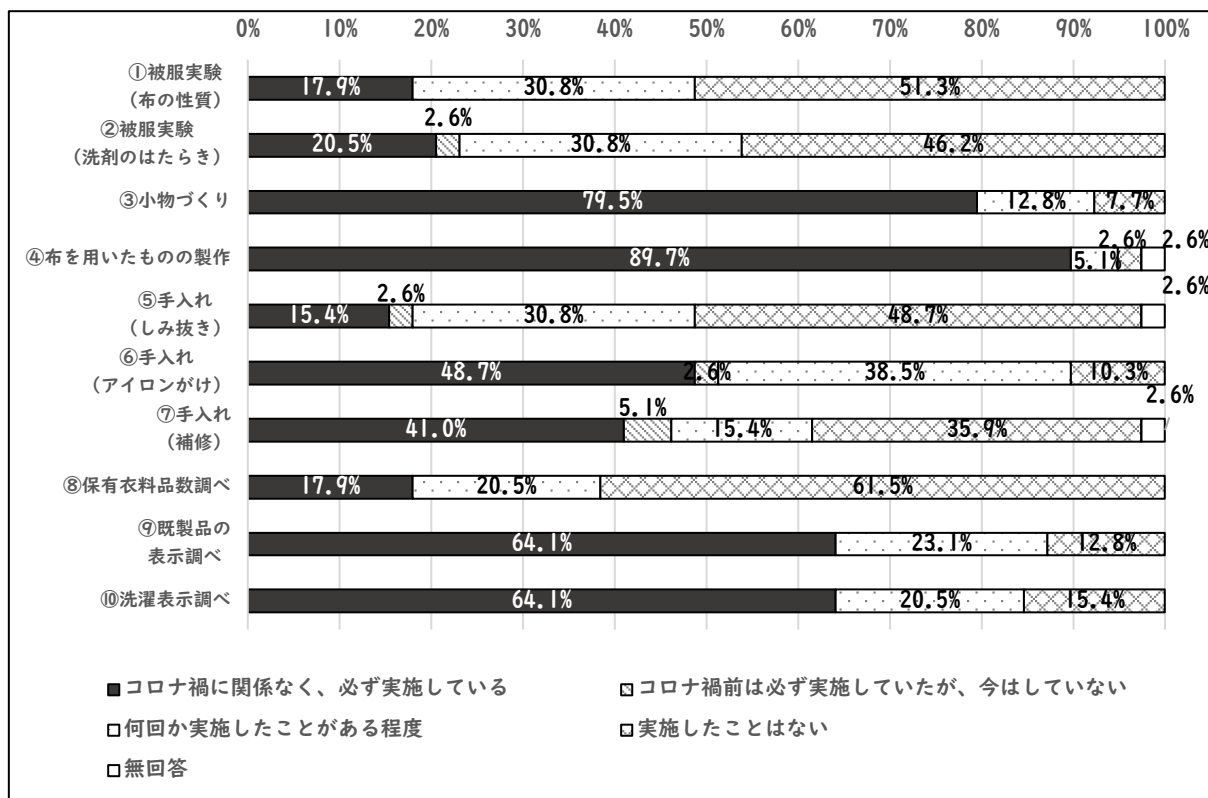
図表 2-3-12 衣生活に関する授業（全体 n=101）



図表 2-3-13 衣生活に関する授業（小学校 n=62）



図表 2-3-14 衣生活に関する授業（中学校 n=39）



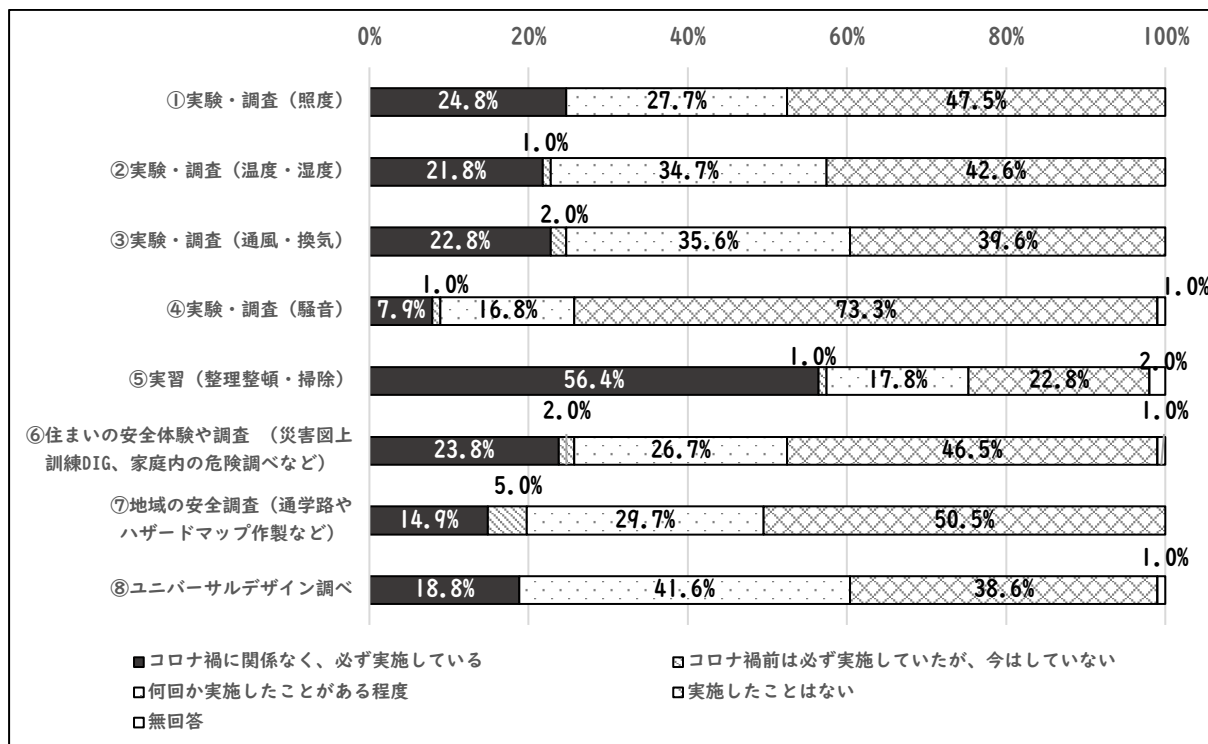
<概要>

- ・概要では「コロナ禍に関係なく、必ず実施している」が多かった項目について述べる。
- ・全体では順に、「布を用いたものの製作」（89.1%）,「小物づくり」（87.1%）,「洗濯表示調べ」（70.3%）であった。
- ・小学校では順に、「小物づくり」（91.9%）,「布を用いたものの製作」（88.7%）,「洗濯表示調べ」（74.2%）であった。
- ・中学校では順に、「布を用いたものの製作」（89.7%）,「小物づくり」（79.5%）,「既製品の表示調べ」,「洗濯表示調べ」（64.1%）であった。

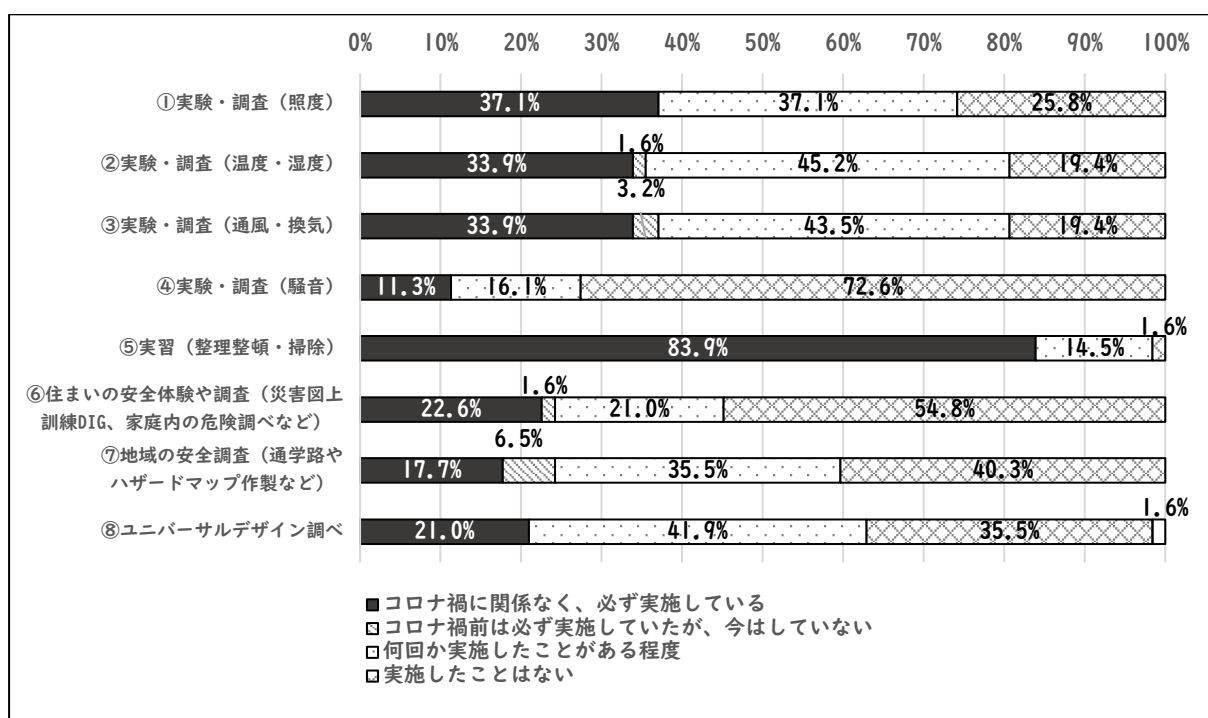
(4) 住生活に関する授業

問 8 住生活に関する授業について、ご回答ください。

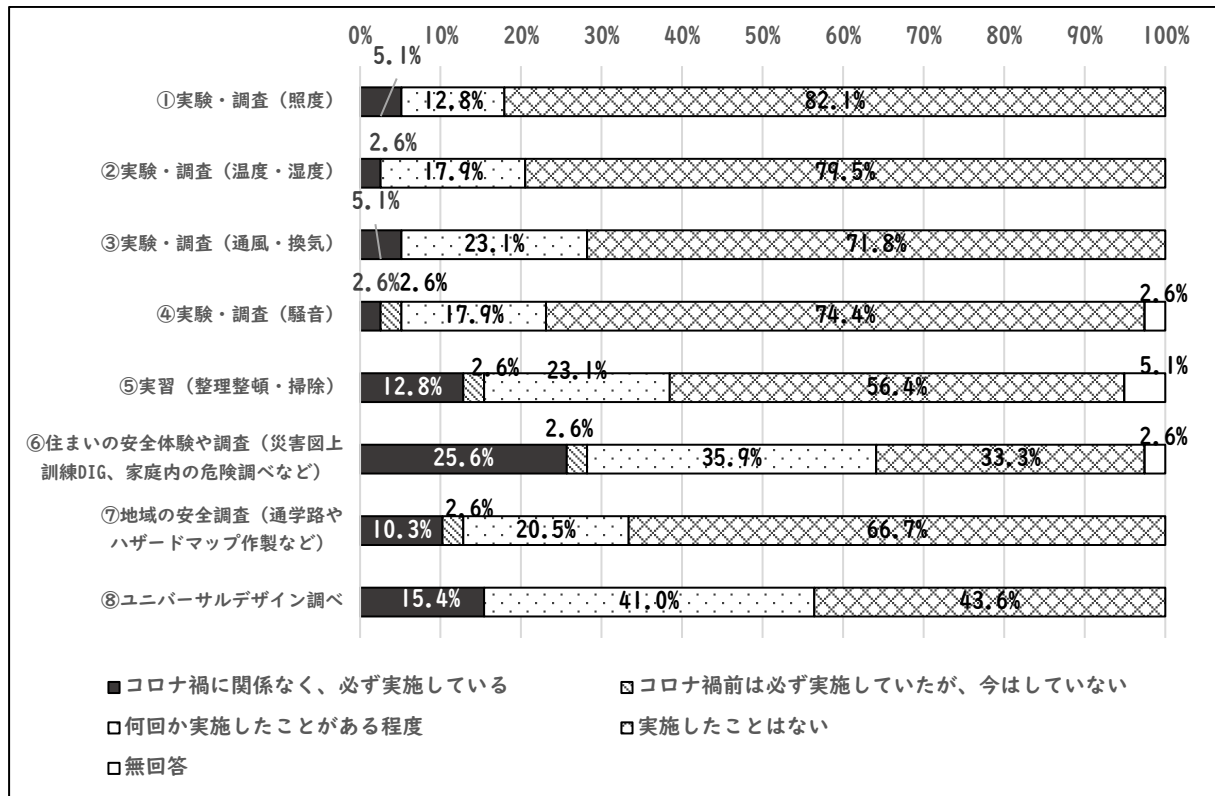
図表 2-3-15 住生活に関する授業（全体 n=101）



図表 2-3-16 住生活に関する授業（小学校n=62）



図表 2-3-17 住生活に関する授業（中学校n=39）



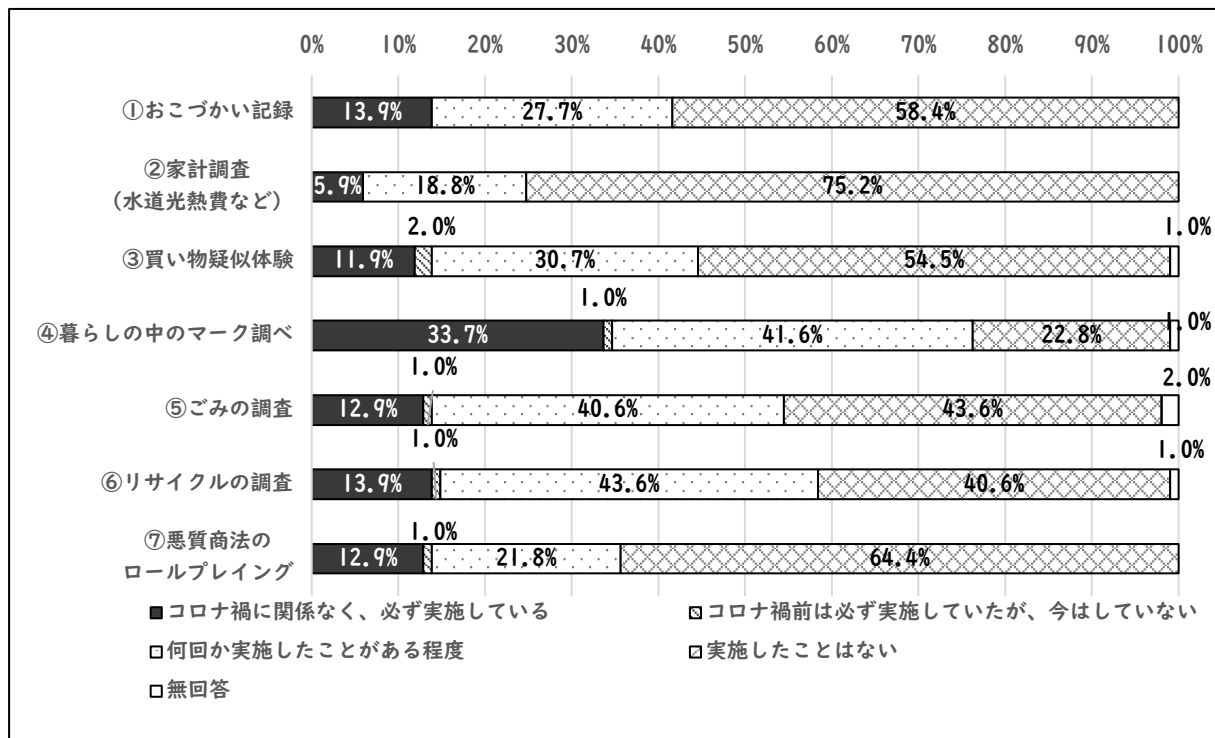
<概要>

- ・概要では、「コロナ禍に関係なく必ず実施している」が多かった項目について述べる。
- ・全体では順に、「実習（整理整頓・掃除）」（56.4%）, 「実習・調査（照度）」（24.8%）, 「住まいの安全体験や調査（災害図上訓練 DIG, 家庭内の危険調べなど）」（23.8%）, であった。
- ・小学校では順に, 「実習（整理整頓・掃除）」（83.9%）, 「実習・調査（照度）」（37.1%）, 「実験・調査（温度・湿度）」, 「実習・調査（通風・換気）」（33.9%）であった。
- ・中学校では順に, 「住まいの安全体験や調査（災害図上訓練 DIG, 家庭内の危険調べなど）」（25.6%）, 「ユニバーサルデザイン調べ」（15.4%）, 「実習（整理整頓・掃除）」（12.8%）であった。

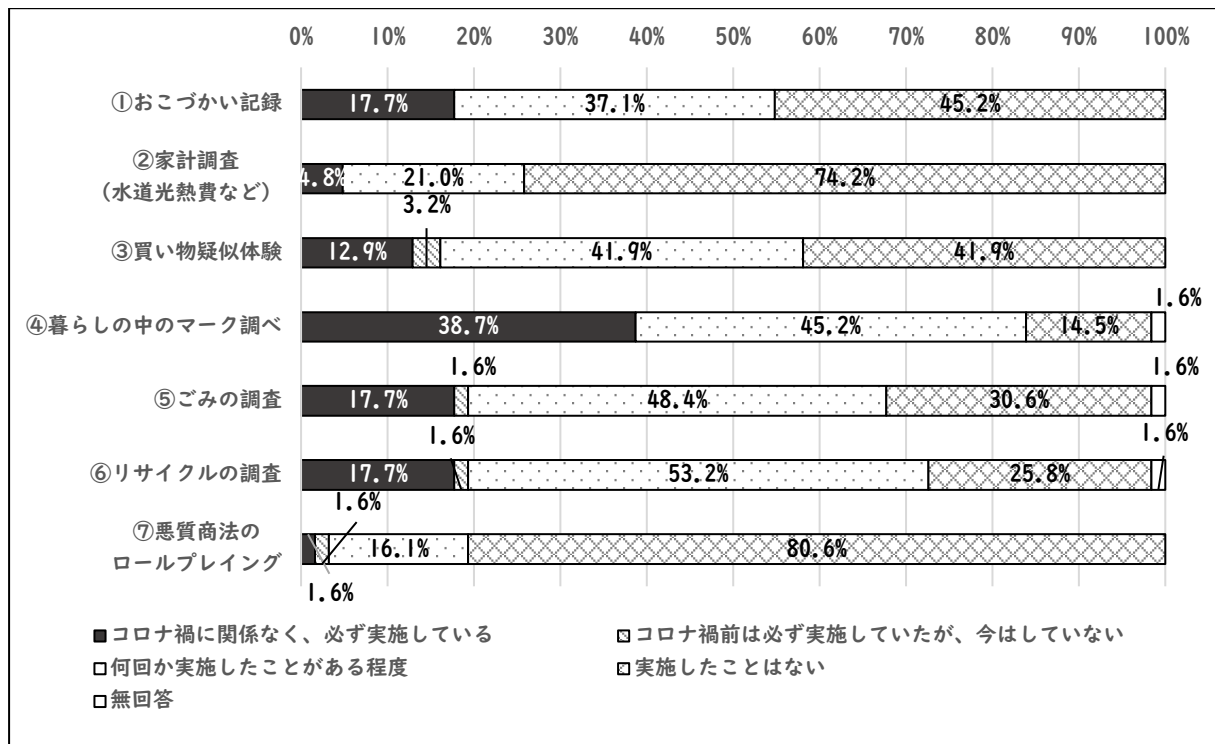
(5) 消費生活・環境に関する授業

問 9 消費生活・環境の授業についてご回答ください。

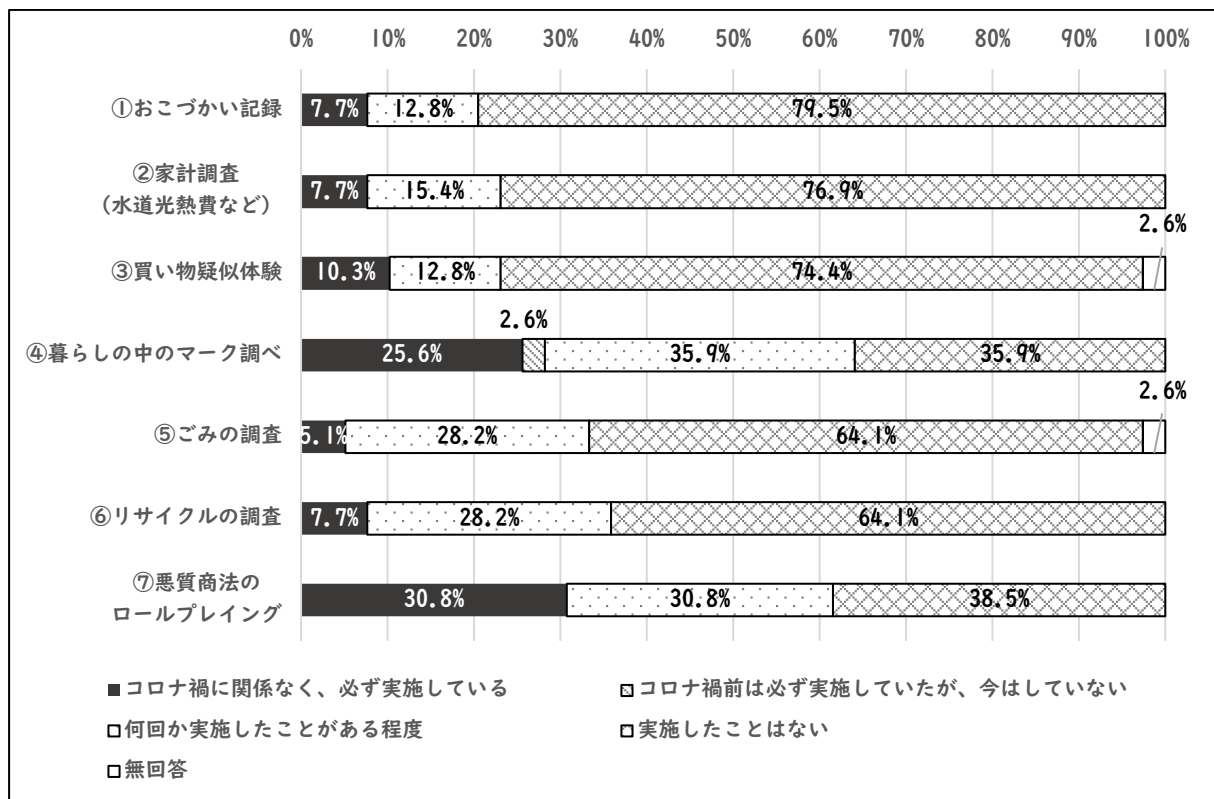
図表 2-3-18 消費生活・環境に関する授業（全体 N=101）



図表 2-3-19 消費生活・環境に関する授業（小学校 N=62）



図表 2-3-20 消費生活・環境に関する授業（中学校 N=39）



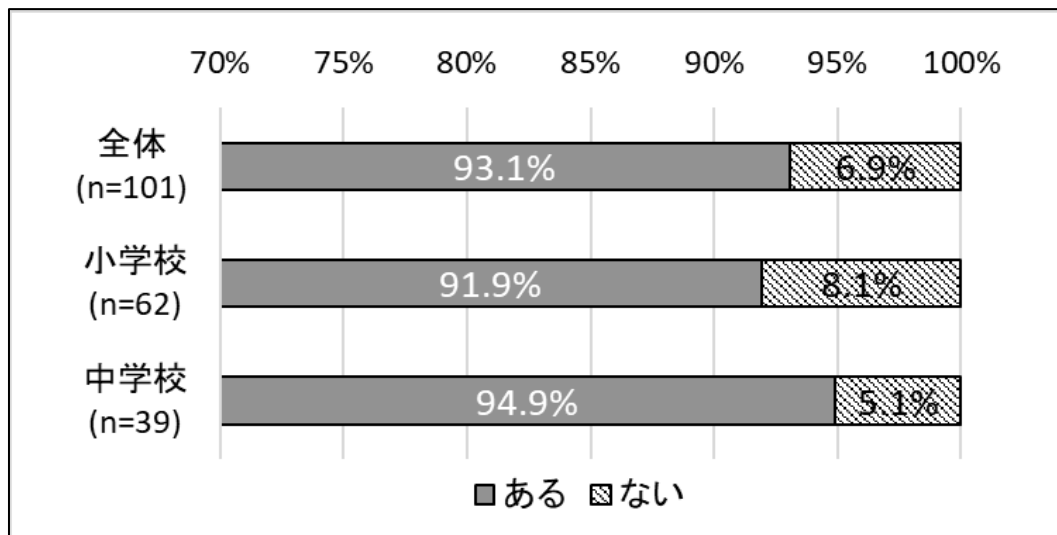
<概要>

- ・概要では「コロナ禍に関係なく、必ず実施している」の多かった項目について述べる。
- ・全体では順に、「暮らしの中のマーク調べ」（33.7%）、「おこづかい記録」、「リサイクルの調査」（13.9%）、「ごみの調査」、「悪質商法のロールプレイング」（12.9%）であった。
- ・小学校では順に、「暮らしの中のマーク調べ」（38.7%）、「おこづかい記録」、「リサイクルの調査」、「ごみの調査」（17.7%）であった。
- ・中学校では順に、「悪質商法のロールプレイング」（30.8%）、「暮らしの中のマーク調べ」（25.6%）、「買い物疑似体験」（10.3%）であった。

2.4 家庭科の授業で「楽しいな」と感じること

問 10 家庭科の授業で「楽しいな」と感じることはありますか。

図表 2-4-1 家庭科の授業で「楽しいな」と感じることの有無



<概要>

- ・家庭科の授業で「楽しいな」と感じることはある者の割合は高く、小学校が 91.9%、中学校が 94.9%で、全体としては 93.1%である。

問 11 どんなことや時に「楽しい」と感じますか。具体的に教えてください。

図表 2-4-2 家庭科の授業で「楽しいな」と感じることの内容 (カテゴリー)

カテゴリー		件数	記述例
1	製作や調理実習	13	・ 調理実習 ものづくり ・ 調理実習や裁縫など活動がある学習を指導するとき
2	児童・生徒が主体的に活動しているとき	39	・ 子供たちと一緒に小物を作ったり調理実習をしたりして、試行錯誤しながらも完成させ満足している子供の様子を見たときや、一生懸命な様子を見ているとき ・ 調理実習について、準備等が非常に大変ではありますが、何よりも生徒たちが楽しく活動する姿を見られるのでこちらも楽しいと感じます。 ・ 家庭生活の中では体験できないような実験や体験活動で、子どもたちが生き生きと調べたり学習を進める様子を見る時。

カテゴリー		件数	記述例
3	児童・生徒が授業を通して新たな知識・技能を身に付けた（気づきや変容があった）とき	20	・ 子どもたちが小さなことを（例えば玉止めを初めてできたとか）できるようになって喜んでいるとき。 ・ 児童が実習や実験を通して、新たな気づきや発見をしているのを見たり聞いたりしたとき。
4	児童・生徒が授業で習得した知識・技能を活用（しよう）しているとき	25	・ 生徒の「家庭でやってみた」や保護者の「家庭科で教わったといっていた」など家庭での実践に結びついていると感じたときなど。 ・ 児童らが調理や製作を楽しんだり、工夫したりすることを通して、生活を豊かにしようとする姿が見られた時。
5	教材研究や授業が上手くいったとき	11	・ 自分が研究した教材、教具で子どもたちの学びに深まりが発表やワークシートなどから実感できたとき。 ・ 1時間の授業作りがうまく設計でき（生徒の実態と準備した授業の進め方が合ったとき）
6	その他	4	・ 調理実習や裁縫を用いた製作実習で、生徒の発想や、5教科の授業ではみられない生徒の表情や行動が見られ、新たな発見につながった時に感じる。
合 計		112	

<概要>

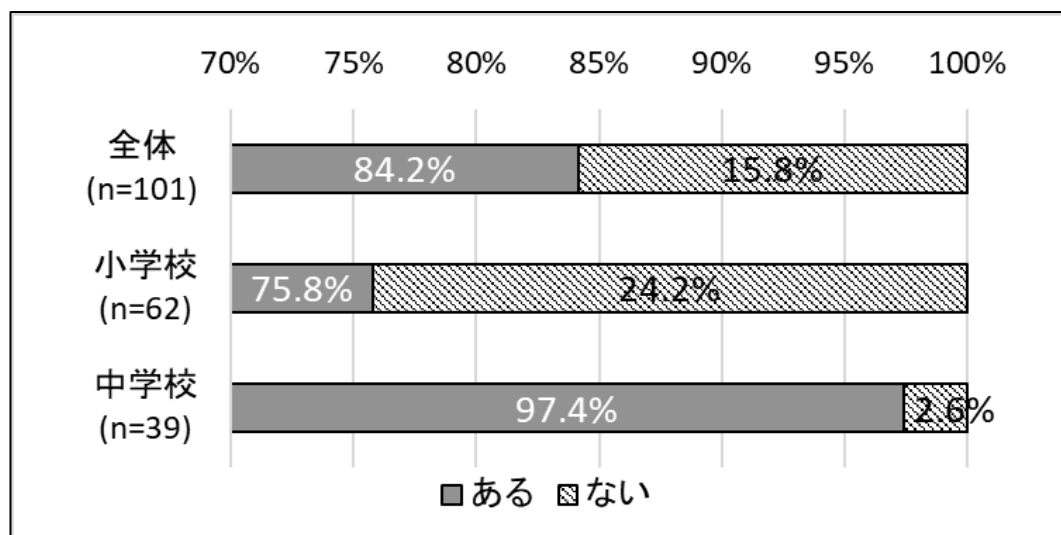
※94 人から得られた自由記述の回答を意味のまとまりに分けたところ、延べ 112 件であった。さらに、意味のまとまり毎に分類し、カテゴリー名をつけた。

・カテゴリーは、「製作や調理実習」、「児童・生徒が主体的に活動しているとき」、「児童・生徒が授業を通して新たな知識・技能を身に付けた（気づきや変容があった）とき」、「児童・生徒が授業で習得した知識・技能を活用（しよう）しているとき」、「教材研究や授業が上手くいったとき」、「その他」の6項目に分類できた。

2.5 家庭科の授業で「困ったな」と感じること

問 12 家庭科の授業で「困ったな」と感じることはありますか。

図表 2-5-1 家庭科の授業で「困ったな」と感じることの有無



<概要>

- ・家庭科の授業で「困ったな」と感じる者がいる者の割合は、全体としては 84.2%で、小学校が 75.8%、中学校が 97.4%であった。

問 13 どんなことや時に「困ったな」と感じますか。具体的に教えてください。

図表 2-5-2 家庭科の授業で「困ったな」と感じることの内容(カテゴリー)

カテゴリー		件数	記述例(原文ママ)
1	授業時間の確保	9	・ 学習内容が多いわりに、時間数が少ないこと。 ・ 実習や実験をした際に発生した児童の気づきや疑問と一緒に検証したいが、授業時数が限られているので取り上げることがなかなかできない時。
2	授業準備時間の確保	7	・ 校務多忙のため、準備の時間が十分にとれなかったとき。
3	教材研究の時間の確保	14	・ 学習指導要領など、新しい内容について、じっくり勉強し計画を立てたりする時間がない。 ・ 変化が激しい社会や環境などについての教材研究が追いつかないとき。

カテゴリー		件数	記述例(原文ママ)
4	コロナ禍の影響(感染対策、交流や実習の制限)	15	・ コロナ禍による調理実習の自粛(大規模校では困難を極めている) ・ コロナ禍でできない事が発生したとき、それを補う為の教材を準備しなければならないとき。 ・ コロナ禍により保育などのふれ合い体験などが実施できず困っている。
5	専門外で的確に指導することができない	13	・ 専科ではないので、時間と内容をこなすことで精一杯
6	児童・生徒の生活経験不足、実習・製作での個人差とその対応	19	・ 生活経験も少なくなり、小学校での学習内容や家庭で身につけているだろうという基礎的な内容も時間をかけなければならない。 ・ 裁縫にしても、調理にしても、個人差の大きい教科だと感じます。苦手な子への指導の仕方に困っています。
7	家庭の協力や家庭への配慮	8	・ 家庭とかかわらせて授業を展開したいと思っても、家庭環境の実態から難しい時や、家庭の協力を得られずかえって子どもに負担をかけてしまう時
8	実習材料の調達、実習費の集金	7	・ 調理実習費の集金体制に困難があります。予め集めた教材費の中から一旦引き落とし、購入後残金を戻す。それに関わる書類や、材料費の変動に事前に足を運んで調べるなどの手間がかかる。2～3人分のキットなどがあればやりやすいと感じる。
9	ミシンの不足や不調	6	・ ミシンのトラブルが多く、指導がいきわたらないときがある
10	人手不足	5	・ 調理実習やミシンがけなど、一人ひとりに目が行き届かない時に、もっと人手がほしいと思う。
11	その他	14	・ テスト問題の作成や評価も大変です。 ・ 複式学級のため、5・6年生一緒に実習する場合に内容を合わせないといけないこと。
合 計		117	

<概要>

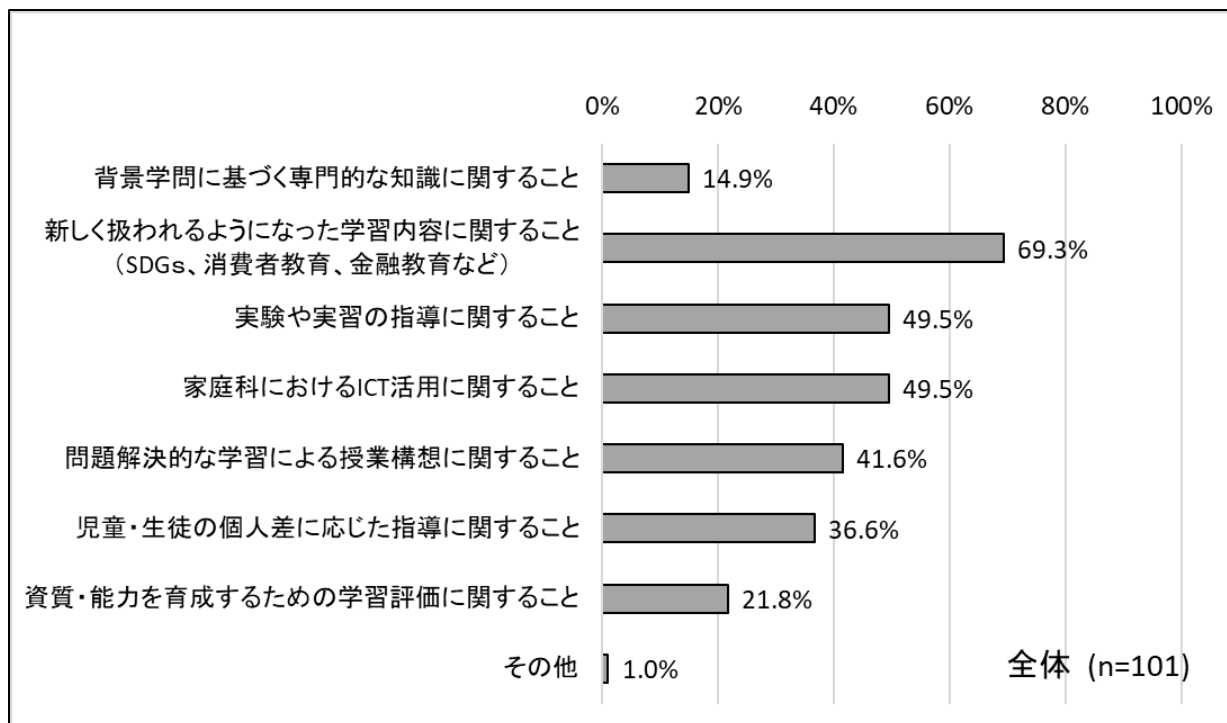
※79人から得られた自由記述の回答を意味のまとまりに分けたところ、延べ117件であった。さらに、意味のまとまり毎に分類し、カテゴリー名をつけた。

・カテゴリーは、「授業時間の確保」、「授業の準備時間の確保」、「教材研究の時間の確保」、「コロナ禍の影響(感染対策、交流や実習の制限)」、「専門外で的確に指導することができない」、「児童・生徒の生活経験不足、実習・製作での個人差とその対応」、「家庭の協力と家庭への配慮」、「実習材料の調達、実習費の集金」、「ミシンの不足や不調」、「人手不足」、「その他」の11項目に分類できた。

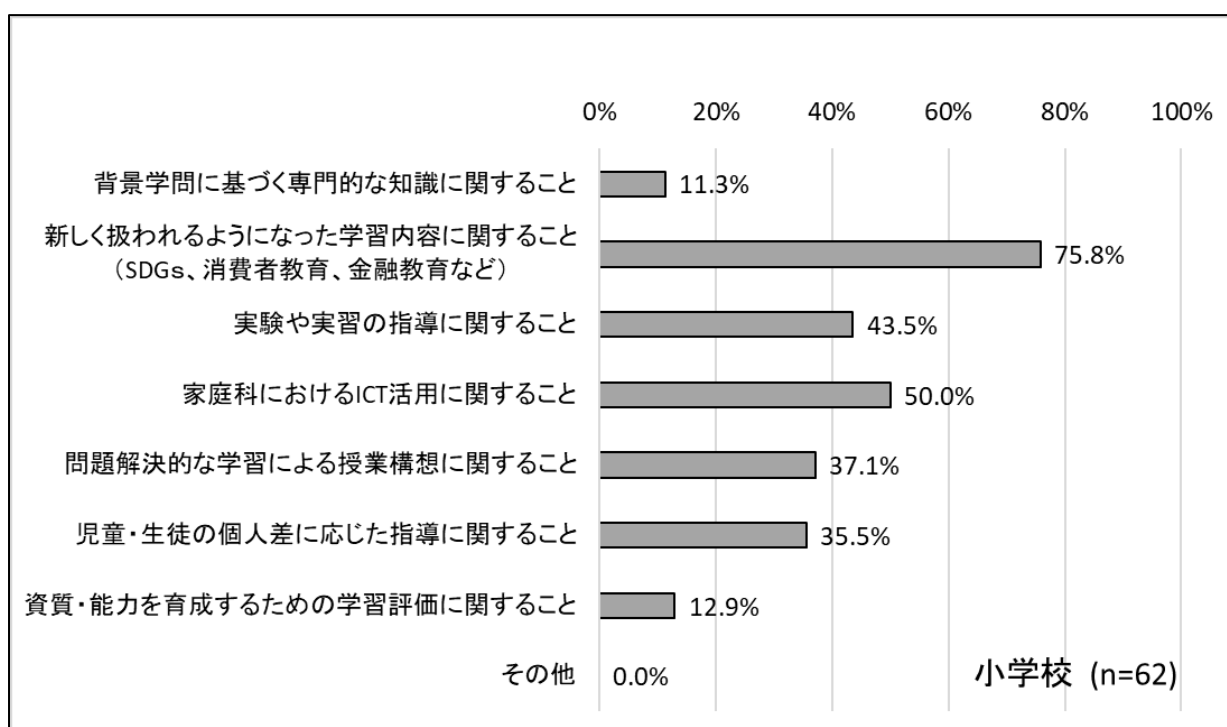
2.6 教員研修の要望

問 14 家庭科の授業実践に生かすための教員研修の内容として、参加したいと思うものがあればお選びください。(複数回答可)

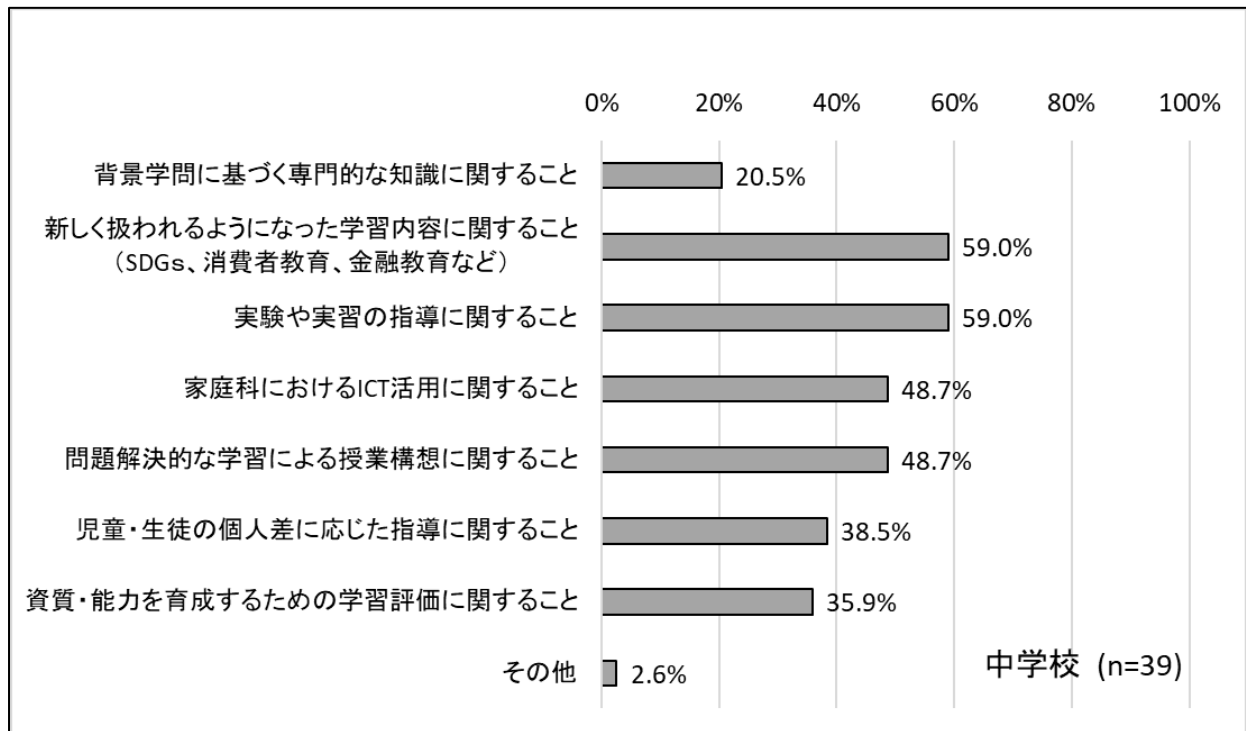
図表 2-6-1 参加したいと思う教員研修の内容(全体)



図表 2-6-2 参加したいと思う教員研修の内容(小学校)



図表 2-6-3 参加したいと思う教員研修の内容（中学校）



<概要>

- ・参加したいと思う教員研修の内容で最も割合が高いのは、「新しく扱われるようになった学習内容に関すること（SDGs、消費者教育、金融教育など）」で、全体では69.3%、小学校で75.8%、中学校で59.0%であった。
- ・次いで割合が高いのは、「実験や実習の指導に関すること」、「家庭科におけるICT活用に関すること」の2項目で、いずれも全体で49.5%である。「実験や実習の指導に関すること」に関しては、中学校が59.0%で「新しく扱われるようになった学習内容に関すること（SDGs、消費者教育、金融教育など）」と同様に高い割合であった。

3 実態調査結果を踏まえて

弘前大学教育学部家政教育講座では、よりよい教員研修機会を提供することに役立てるため、青森県内の小中学校の家庭科担当教員を対象として、家庭科指導に対する認識や実践的・体験的な学習を手だてとした授業実践の現状を調査し、その結果を本報告書にまとめました。現時点では、次のことが明らかになりました。

①家庭科の指導に対する認識

自身の家庭科の指導スタイルに対する認識は、小学校は「教科書に掲載されたすべての項目を、できるだけ指導するようにしている」(58.1%)、中学校は「教科書を参考にしつつ、自分で工夫した教材なども用いて指導している」(56.4%)とする割合が高い結果になりました。また、家庭科担当教員は、児童・生徒が家庭科の学びの特質である実践的・体験的な活動に主体的に取り組んでいるときや、知識や技能を身に付けたり、それらを活用して実際の生活に活かす(活かそうとする)児童・生徒の姿に楽しさを感じていました。一方で、家庭科の特質を捉えた学びを保証するための教材研究や教員研修、授業準備時間の確保、家庭の協力等、指導上の課題を抱えていることも明らかになりました。これらの課題には、小中の学校段階による差異も認められています。

②実践的・体験的な活動を手だてとした授業実践

新学習指導要領(2017 告示)の内容を反映し、さまざまな実践的・体験的な活動を手だてとして授業の充実が図られていることがわかりました。小中全体で実践割合の高かった活動は順に、「布を用いたものの製作」、「小物づくり」、「洗濯表示調べ」であり、衣生活領域に多いことが明らかになりました。また、製作や実習に比べると、科学的な理解を促す実験や調査などの体験的な学習はあまり実践されていない傾向にありました。なお、コロナ禍前後で実践割合に差が認められたものは、ふれあい体験や交流活動、調理実習などであり、人とかかわりをもつ体験的な学習の実施が難しい現状にあることも浮き彫りになりました。

③参加したいと思う教員研修の内容

変化する生活を学びの対象とする家庭科を担当する教員は、「新しく扱われるようになった学習内容に関すること(SDGs, 消費者教育, 金融教育など)」や「家庭科における ICT 活用に関すること」などに対する研修のニーズが高く、社会の変化を反映した結果となりました。また、「実験や実習の指導に関すること」についても参加の意向が高いことがわかりました。

今後は、実践的・体験的な学習の実施における学校段階等による差異やその背景などについてより詳細な分析を行い、家庭科指導の実態を捉えた研修内容の検討や充実した研修機会を提供していきたいと考えています。

資 料

令和5年1月27日

学校長 殿

弘前大学教育学部家政教育講座

「家庭科担当教員の実践的・体験的学習指導に関する実態調査」について（依頼）

寒冷の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、弘前大学教育学部家政教育講座では、青森県の小中家庭科担当教員を対象として「実践的・体験的学習指導に関する実態調査」を実施することになりました。調査の概要は、下記の通りです。つきましては、公務多忙の折とは存じますが、調査対象者として、貴職下 家庭科担当教員 にご協力いただけますようご高配の程よろしくお願い申し上げます。

記

○背景と目的

現在、青森県に限らず中学校では、家庭科を免許外で担当している教員が非常に多かったり、家庭科教員が専門外の教科を担当していたりして、家庭科の新しい知識や情報、新規の実験・実習方法を身につける時間がない現実があります。また、小学校では家庭科を専門に学んできた教員が少なく、実践的・体験的な学習に伴う準備や個人差への対応などの困難を抱えています。

そこで、学校教育現場における実践的・体験的な学習の指導の現状を明らかにするとともに、現職教員が家庭科の授業を担当する中で、困難に感じていることや知りたいと欲していることなど学校現場のニーズをより具体的に把握するために調査を実施いたします。

○実施期間 ～令和5年2月10日（金）

○回答時間 10～15分程度

○実施方法 ・URLをWebブラウザのアドレス欄に入力する。

<https://forms.office.com/r/rtCgh0F5NL>

・QRコードを読み取る。

○その他 ・ご回答のデータは、学会や論文等で用いることはありますが、統計的に処理されるため個人や学校が特定されることはありません。



＜担当＞ 弘前大学教育学部家政教育講座

准教授 加賀 恵子

電話：0172-39-3440

E-mail：kkaga@hirosaki-u.ac.jp

令和5年1月27日

家庭科担当教員 様

弘前大学教育学部家政教育講座

「家庭科担当教員の実践的・体験的学習指導に関する実態調査」について（協力依頼）

寒冷の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、弘前大学教育学部家政教育講座では、青森県の小中学校の家庭科担当教員を対象として「実践的・体験的学習指導に関する実態調査」を実施することになりました。調査の概要は、下記の通りです。つきましては、公務多忙の折とは存じますが、趣旨をご理解いただき調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

記

○背景と目的

現在、青森県に限らず中学校では、家庭科を免許外で担当している教員が非常に多かったり、家庭科教員が専門外の教科を担当していたりして、家庭科の新しい知識や情報、新規の実験・実習方法を身につける時間がない現実があります。また、小学校では家庭科を専門に学んできた教員が少なく、実践的・体験的な学習に伴う準備や個人差への対応などの困難を抱えています。

そこで、学校教育現場における実践的・体験的な学習の指導の現状を明らかにするとともに、現職教員が家庭科の授業を担当する中で、困難に感じていることや知りたいと欲していることなど学校現場のニーズをより具体的に把握するために調査を実施いたします。

○実施期間 令和5年2月10日（金）までにご回答ください。

○回答時間 10～15分程度

○実施方法 ・URLをWebブラウザのアドレス欄に入力する。

<https://forms.office.com/r/rtCgh0F5NL>

・QRコードを読み取る。

○その他 ・ご回答のデータは、学会や論文等で用いることはありますが、統計的に処理されるため個人や学校が特定されることはありません。



※2月18日（土）に、「ゆで野菜サラダとドレッシングのキッチンサイエンス」を開催します。詳細は同封のチラシをご覧ください。お気軽にご参加くださいませ。

<担当> 弘前大学教育学部家政教育講座

准教授 加賀 恵子

電話：0172-39-3440

E-mail：kkaga@hirosaki-u.ac.jp

家庭科の実践的・体験的な 学習指導に関する実態調査



本調査は、家庭科の実践的・体験的な学習の指導に関する実態を把握するために実施するものです。ご回答いただいた情報は、学会や論文等で用いることはありますが個人や学校を特定するようなことはありません。趣旨をご理解いただき、先方のご協力をお願いします。
(調査回答時間：10～15分程度)

＜調査主体＞弘前大学教育学部家政教育講座
担当：加賀恵子、安川あけみ、小野恭子、谷本豊太郎
青森県弘前市文京町 1
0172-39-3440 / ktaga@hirosaki-u.ac.jp

* 必須

1. 本調査への回答は任意です。
途中で回答をおやめいただいても問題はありません。(送信しなければ、データが使われることはありません。) また、答えたくない質問には回答せず、次の質問に進んでいただいて構いません。調査結果の電子データは厳重に保管し、研究終了10年経過後に廃棄いたします。
- ご回答いただける場合は、「調査に回答することに同意する」をクリックした後、質問にお答え下さい。*
- ☐ 調査に回答することに同意する

2. あなたの家庭科の指導に関して、どのくらいあてはまると思いますか。
項目ごとに、あてはまるものを1つずつお選びください。

	そう思う	どちらかといえそう思う	どちらかといえそう思わない	そう思わない
時代の進展とともに新しい学習内容が加わり、自信をもって指導ができなくなっている	☐	☐	☐	☐
自分自身の家庭科の知識や技能に不安がある	☐	☐	☐	☐
家庭科以外の教科も担当しており、家庭科の授業準備が十分にできない	☐	☐	☐	☐
生徒や保護者の生活実態が変化し、家庭の協力が得られにくくなった	☐	☐	☐	☐
家庭科の教科指導について相談できる人がいない	☐	☐	☐	☐
授業準備や公務が多忙で、研修会や研究会への参加が困難である	☐	☐	☐	☐
十分な授業を行うためには授業時数が不足している	☐	☐	☐	☐

3. あなたの家庭科の指導に最も近いものを、一つお選びください。

- ☐ 教科書に掲載されたすべての項目を、できるだけ指導するようにしている
- ☐ 教科書を参考にしつつ、自分で工夫した教材なども用いて指導している
- ☐ 社会的な課題等(例えばSDGsなど)、重要だと思ふ事項に重点を置いて指導している
- ☐ その他

4. 家族・家庭生活に関する授業について、ご回答ください。

以下のような実践的・体験的な活動を手だてとして授業実践をされていますか。

	コロナ禍に 関係なく、 必ず実施し ている	コロナ禍以 前は必ず実 施していた が、今はし ていない	何回か実施 したことが ある程度	実施したこ とはない
①生活時間調 査	☐	☐	☐	☐
②家の人の仕 事調べ	☐	☐	☐	☐
③幼児とのふ れあい体験	☐	☐	☐	☐
④幼児疑似体 験	☐	☐	☐	☐
⑤乳児親子と のふれあい体 験	☐	☐	☐	☐
⑥高齢者との ふれあい体験	☐	☐	☐	☐
⑦高齢者疑似 体験	☐	☐	☐	☐
⑧家族のロー ルプレイング	☐	☐	☐	☐
⑨地域の人々 との交流	☐	☐	☐	☐

5. 食生活に関する授業について、ご回答ください。
以下のような実践的・体験的な活動を手だてとして授業実践をされていますか。

	コロナ禍に 関係なく、 必ず実施し ている	コロナ禍前 は必ず実施 していた が、今はし ていない	何回か実施 したことが ある程度	実施したこ とはない
①調理実験 (栄養素に関 すること)	☐	☐	☐	☐
②調理実験 (食品の調理 上の性質に関 すること)	☐	☐	☐	☐
③食品表示調 べ	☐	☐	☐	☐
④食文化調べ (地域の食材 や郷土料理な ど)	☐	☐	☐	☐
⑤調理実習に かかわる安全 指導	☐	☐	☐	☐
⑥調理実習	☐	☐	☐	☐

6. 調理実習を「実施したことはない」以外を選ばれた方にお尋ねしま
す。2022年度は何回くらい調理実習を実施しましたか。家庭での実
践を課題とした場合や今後の予定も含め、学年ごとにお答えくださ
い。
(※ご担当されていない学年は、担当していないを選んでくださ
い。)

	担当してい ない	0回	1回	2回	3回以上
小5	☐	☐	☐	☐	☐
小6	☐	☐	☐	☐	☐
中1	☐	☐	☐	☐	☐
中2	☐	☐	☐	☐	☐
中3	☐	☐	☐	☐	☐

7. 衣生活に関する授業について、ご回答ください。

以下のような実践的・体験的な活動を手だてとして授業実践をされていますか。

	コロナ禍に 関係なく、 必ず実施し ている	コロナ禍前 は必ず実施 していた が、今はし ていない	何回か実施 したことが ある程度	実施したこ とはない
①被服実験 (布の性質)	☐	☐	☐	☐
②被服実験 (洗剤のはた らき)	☐	☐	☐	☐
③小物づくり	☐	☐	☐	☐
④布を用いた ものの製作	☐	☐	☐	☐
⑤手入れ (し み抜き)	☐	☐	☐	☐
⑥手入れ (ア イロンかけ)	☐	☐	☐	☐
⑦手入れ (補 修)	☐	☐	☐	☐
⑧廃衣衣料品 数調べ	☐	☐	☐	☐
⑨既製品の表 示調べ	☐	☐	☐	☐
⑩洗濯表示調 べ	☐	☐	☐	☐

8. 住生活に関する授業について、ご回答ください。

以下のような実践的・体験的な活動を手だてとして授業実践をされていますか。

	コロナ禍に 関係なく、 必ず実施し ている	コロナ禍前 は必ず実施 していた が、今はし ていない	何回か実施 したことが ある程度	実施したこ とはない
①実験・調査 (照度)	☐	☐	☐	☐
②実験・調査 (温度・湿 度)	☐	☐	☐	☐
③実験・調査 (通風・換 気)	☐	☐	☐	☐
④実験・調査 (騒音)	☐	☐	☐	☐
⑤実習 (整理 整頓・掃除)	☐	☐	☐	☐
⑥住まいの安 全体験や調査 (災害図上訓 練DIG、家庭 内の危険調べ など)	☐	☐	☐	☐
⑦地域の安全 調査 (通学路 やバザー・マ ップ作製な ど)	☐	☐	☐	☐
⑧ユニバーサ ルデザイン調 べ	☐	☐	☐	☐

9. 消費生活・環境の授業について、ご回答ください。

以下のような実践的・体験的な活動を手だてとして授業実践をされていますか。

	コロナ禍に 関係なく、 必ず実施し ている	コロナ禍前 は必ず実施 していた が、今はし ていない	何回か実施 したことが ある程度	実施したこ とはない
①おこづかい 記録	☐	☐	☐	☐
②家計調査 (水道光熱費 など)	☐	☐	☐	☐
③買い物疑似 体験	☐	☐	☐	☐
④暮らしの中 のマーク調べ	☐	☐	☐	☐
⑤ごみの調査	☐	☐	☐	☐
⑥リサイクル の調査	☐	☐	☐	☐
⑦悪質商法の ロールプレ イ ング	☐	☐	☐	☐

10. 家庭科の授業で「楽しいな」と感じることがありますか。

- ☐ ある
- ☐ ない

11. どんなことや時に「楽しいな」と感じますか。具体的に教えてください。

12. 家庭科の授業で「困ったな」と感じることはありませんか。

- ☐ ある
- ☐ ない

13. どんなことや時に「困ったな」と感じますか。具体的に教えてください。

14. 家庭科の授業実践に生かすための教員研修の内容として、参加したいと思うものがあればお選びください。（複数回答可）
- ☐ 背景学問に基づく専門的な知識に関すること
 - ☐ 新しく扱われるようになった学習内容に関すること（SDGs、消費者教育、金融経済教育など）
 - ☐ 実験や実習の指導に関すること
 - ☐ 家庭科におけるICT活用に関すること
 - ☐ 問題解決的な学習による授業構想に関すること
 - ☐ 児童・生徒の個人差に応じた指導に関すること
 - ☐ 資質・能力を育成するための学習評価に関すること
 - ☐ その他

15. 現在家庭科を教えておられる学校種について、あてはまるものをお選びください。
（※複数回答可：小中勤務、中高勤務等）
- ☐ 小学校
 - ☐ 義務教育学校
 - ☐ 中学校
 - ☐ 中高一貫校
 - ☐ 高等学校
 - ☐ 特別支援学校
 - ☐ その他

16. 現在の雇用形態について、あてはまるものをお選びください。

- ☐ 正規教員
- ☐ 常勤講師
- ☐ 非常勤講師
- ☐ 再任用教員（フルタイム・短時間を含む）

17. あなたの教員歴について、あてはまるものを選んでください。（※講師期間を含む）

- ☐ ～5年未満
- ☐ 5年～10年未満
- ☐ 10年～20年未満
- ☐ 20年以上

20. あなたは中学校の免許を保有していますか。

- ☐ いる
- ☐ いない

21. 免許を保有している教科をすべてお選びください。

- ☐ 国語
- ☐ 社会
- ☐ 数学
- ☐ 理科
- ☐ 音楽
- ☐ 美術
- ☐ 保健体育
- ☐ 技術
- ☐ 家庭
- ☐ 外国語
- ☐ その他

18. あなたの家庭科教員歴について、あてはまるものを選んでください。（※講師期間を含む）

- ☐ 教員歴と同じ
- ☐ ～5年未満
- ☐ 5年～10年未満
- ☐ 10年～20年未満
- ☐ 20年以上

19. あなたは小学校の免許を保有していますか。

- ☐ いる
- ☐ いない

22. あなたは高校家庭の免許を保有していますか。

☐ いる

☐ いない

23. あなたの週当たりの授業担当時数を教えてください。

(例) 小学校の場合：24時間（うち家庭科6時間）

中学校の場合：家庭科10時間、社会科8時間 など

24. あなたの性別をお選びください。

☐ 女性

☐ 男性

☐ 不定性

☐ 答えたくない

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。



Microsoft Forms

青森県内小中学校における家庭科の
実践的・体験的な学習指導に関する実態調査報告書

2024 年 10 月 21 日発行

<編集・発行> 弘前大学教育学部家政教育講座

加 賀 恵 子

小 野 恭 子

谷 本 憂 太 郎